

別名端谷 I 遺跡の古代の評価をめぐる基礎的整理 — 緑釉陶器と土師質土器三足盤 —

青木聡志

はじめに

別名端谷 I 遺跡は愛媛県今治市別名字端谷に所在し、平成14年度の今治新都市開発(第1次調査)に伴って発掘調査が実施された。本遺跡では、古代(8～9世紀)の鍛冶炉が検出され、『倉正私印』の銘をもつ銅印などが出土した。その後、令和4年度に一般国道196号今治道路・市道別名矢田線の整備に伴い第2次調査が実施され、県内では珍しい組み合わせの古代の井戸(石組みの井戸側に水溜もしくは井筒として刳物を使用)、火葬墓と考えられる土器埋納遺構、「奉□□大般若経六百卷 天文拾五丙午歳月吉日(吉辰)」と墨書された中世後半の木札などが出土した(青木2023)。その他にも、第2次調査の特筆すべき点として、県内では初事例となる白釉緑彩陶器や多数の緑釉陶器の出土が挙げられる。

本遺跡は在庁官人あるいは在地の官人層が主導した官営の鍛冶工房跡であり、国衙もしくは郡衙に付随する鍛冶工房跡と考えられている(財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2007)。別名端谷 I 遺跡2次調査で出土した緑釉陶器は、9世紀～10世紀にかけていずれの時期も20～30点以上、一定量出土していることが特徴の一つであり、緑釉陶器は県内最多の出土量を誇り、灰釉陶器も県内有数の出土量である。施釉陶器の保有状況から本遺跡の評価を試みる必要があるが、そのためには愛媛県内で緑釉陶器が出土した遺跡と比較・検討をしなければならない。また、施釉陶器の保有状況だけでなく、井戸や土器埋納遺構などの新たな知見を踏まえると、官営鍛冶工房遺跡としての多様なあり方を想定できる可能性があり、本遺跡の位置付けや性格について再度評価する必要がある。そのため、本稿では別名端谷 I 遺跡の古代の評価をめぐる基礎的整理として、第2次調査の調査成果の一つである緑釉陶器を取り上げ、愛媛県内の緑釉陶器の保有状況を明らかにすることを目的とする。加えて、本遺跡の評価をするにあたり、第2次調査で出土した土師質土器三足盤について、県内でも類例をみないため、資料紹介をしたい。

1 別名端谷 I 遺跡2次調査の緑釉陶器

別名端谷 I 遺跡2次調査で出土した緑釉陶器の概要について示す¹⁾。別名端谷 I 遺跡2次調査では、未整理段階で201点の緑釉陶器が確認されている(図1～4)。これらの緑釉陶器は、別名端谷 I 遺跡2次調査の調査区全体から満遍なく出土しているのではなく、偏りがみられる。大多数は3区1面目の包含層と3区SD65～71の溝から出土している。緑釉陶器の器種は、碗、皿、耳皿、小碗、袋物(壺か瓶)が認められ、産地では、京都産、東海産、近江産が確認でき、防長産は1点もみられない。特筆されるものとして、白釉緑彩陶器(図2-1、2)と陰刻花文皿(図3-50)がある。白釉緑

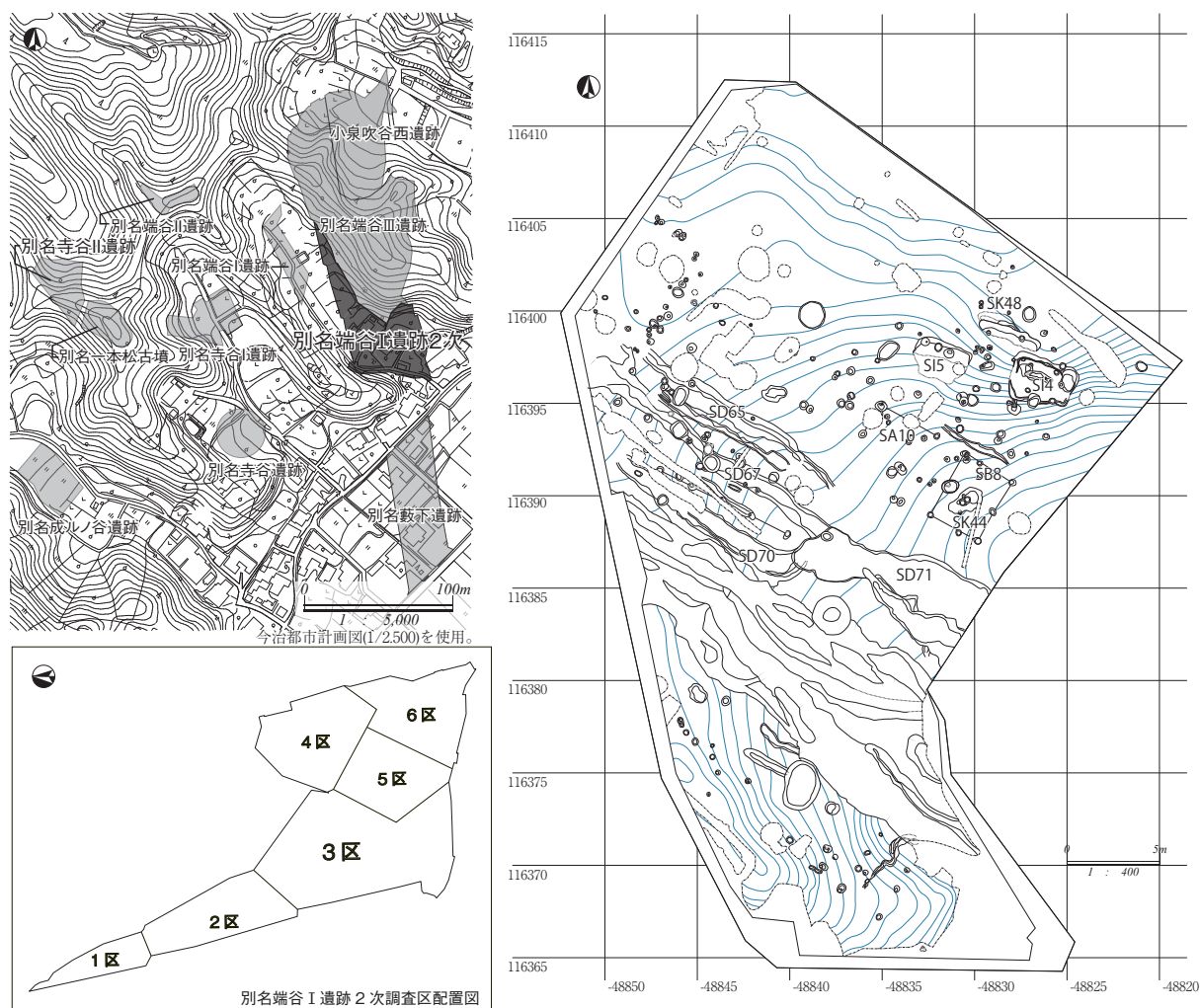
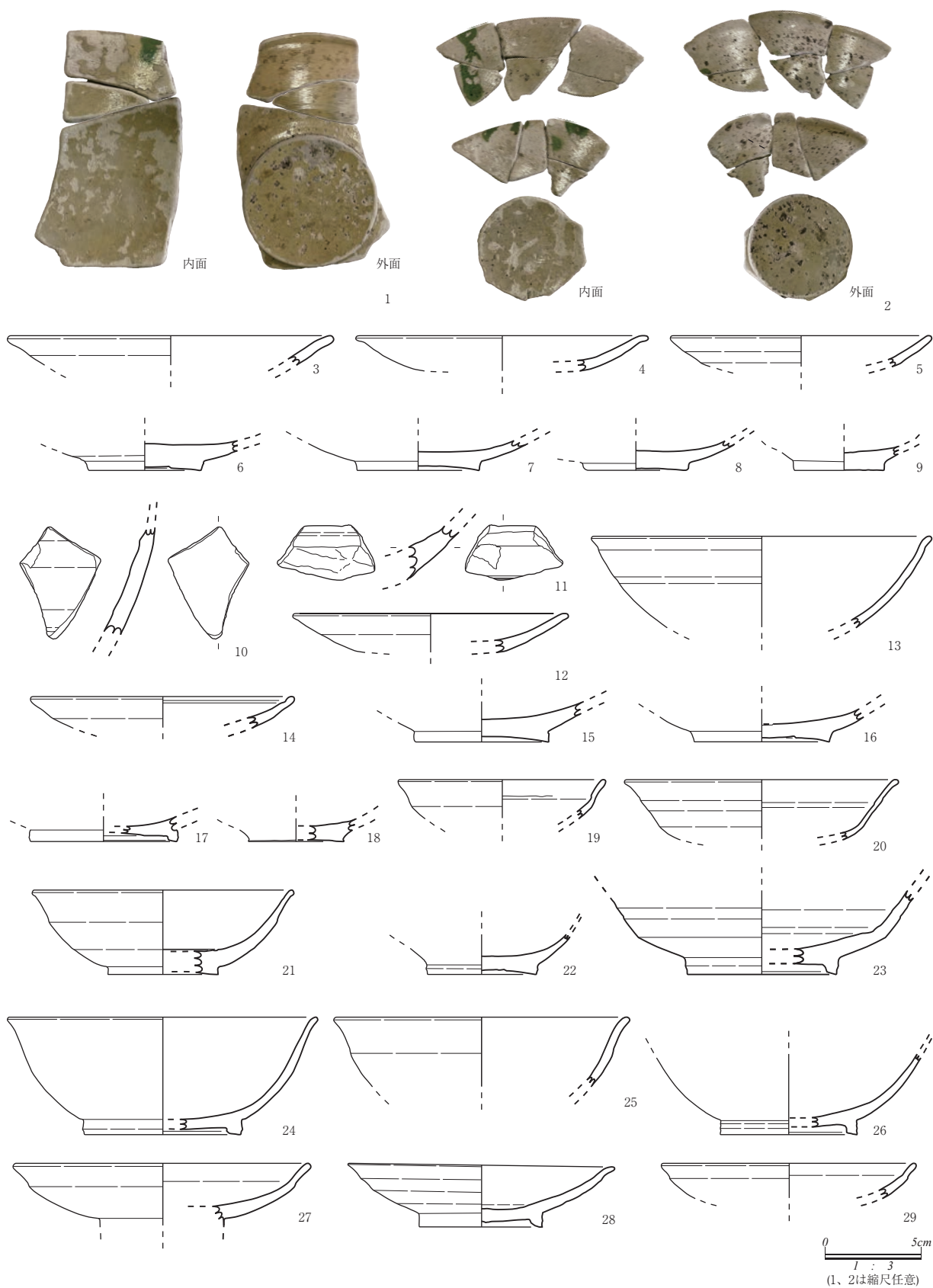


図1 別名端谷I遺跡2次調査の位置と3区1面目の全測図

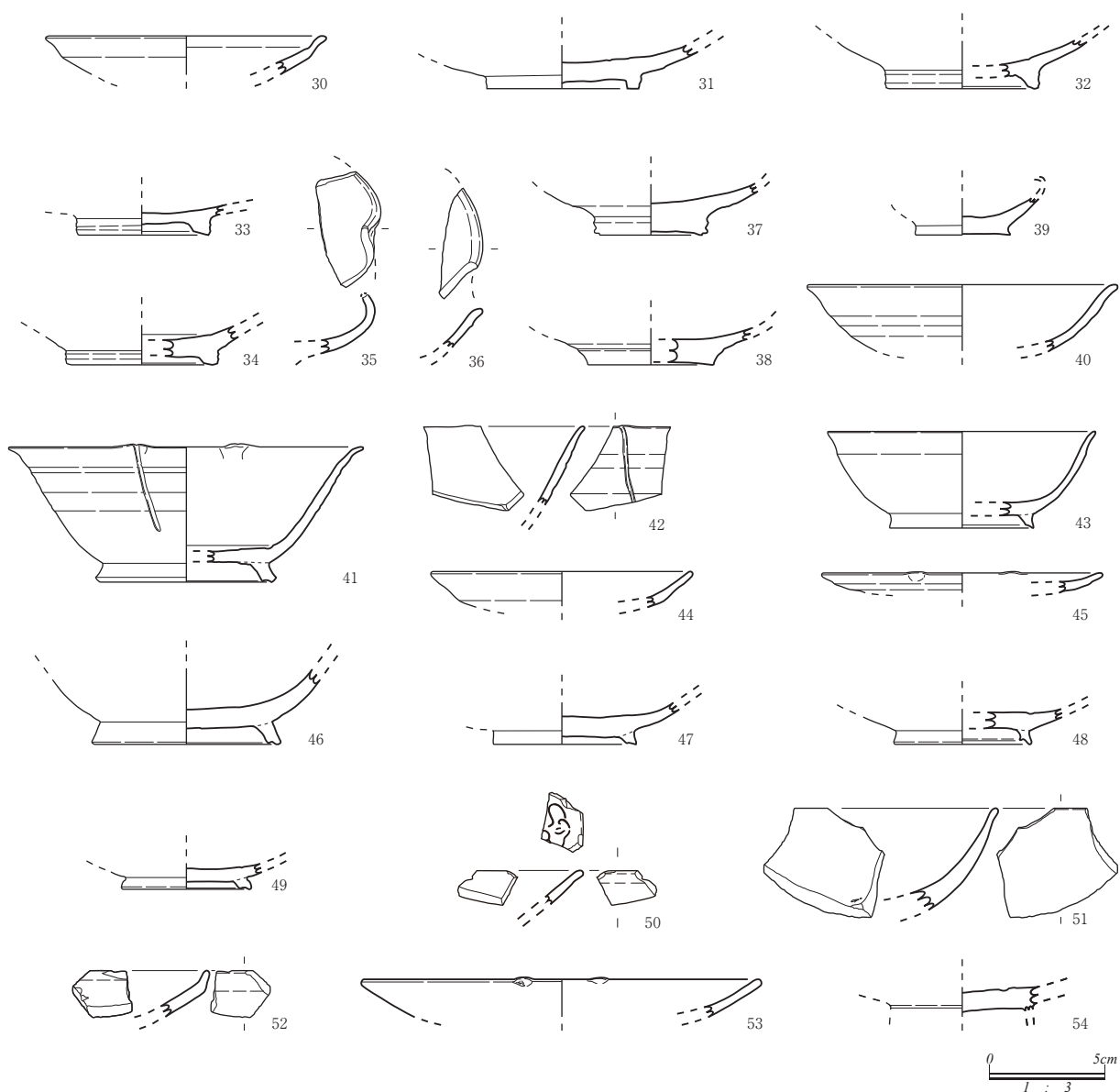
彩陶器は2個体出土し、器壁が厚いもの(図2-1)と薄いもの(図2-2)がみられる。高台は削り出しの円盤高台であり、透明釉が高台外面まで内外面ともに全面に施釉されている。口縁端部内面には、透明釉の上から濃緑色の釉が垂れ流すように掛けられている。図2-2は口縁部外面中程に濃緑色の斑点が一部確認できる。胎土は白色を呈する軟質胎土である。いずれもSD65から出土し、9世紀前半の京都産と考えられる。陰刻花文皿は6区SD57から出土し、内面に花文が描かれ、口縁部中程から端部に向かって花文が開いている。釉は内外面ともに施釉され、釉が土中の影響を受けて銀化しているため、濃い深緑色を呈している。胎土は精良で、硬質であり、焼成は堅緻である。9世紀後半の東海産と考えられる。白釉緑彩陶器は愛媛県内初事例であり、陰刻花文の緑釉陶器は、松山市祝谷本村遺跡で9世紀後半に位置付けられる京都産の陰刻花文碗が出土しているが、東海産の陰刻花文皿は県内初事例である。袋物(壺か瓶)(図2-10、11)は2点確認でき、いずれも9世紀前半の京都産である。耳皿(図2-9、13、図3-35～39)は9世紀前半～10世紀前半にかけてみられる。その他にも、碗や皿のなかには口縁部に輪花をもつ輪花碗や輪花皿もあり、東海産の輪花皿(図3-53)が1点出土している。

201点出土した緑釉陶器のうち、最も多くみられる産地は京都産である。173点確認でき、全体



1、2 白釉緑彩陶器 3～11 京都産(9世紀前半) 12～18 京都産(9世紀中頃) 19～22 京都産(9世紀後半) 23～29 京都産(10世紀前半)

図2 別名端谷I遺跡2次調査出土緑釉陶器その1



30～34 京都産(10世紀前半) 35～40 京都産(9世紀後半～10世紀前半) 41～49 近江産 50～54 東海産

図3 別名端谷I遺跡2次調査出土緑釉陶器その2

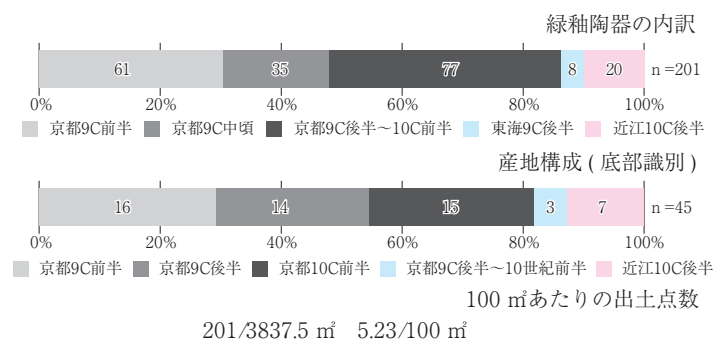


図4 別名端谷I遺跡2次調査で出土した緑釉陶器の概要

(別名端谷I遺跡2次調査の分析は、高橋照彦氏の御教示のもと現在整理作業中の数値である。今後未整理のものを含め増加する可能性があり、時期や産地に関しても多少増減する可能性がある。)

の出土量の86%を占める。次に近江産20点、東海産8点と続く。京都産のうち、9世紀前半は61点、9世紀中頃は35点、9世紀後半～10世紀前半は77点確認でき、近江産はいずれも10世紀後半、東海産はすべて9世紀後半ごろに位置付けられる。京都産緑釉陶器のうち、時期の判断がしやすい底部をみると、円盤高台未調整は5点、削り出し円盤高台は23点、削り出し蛇の目高台は5点、削り出し輪高台は16点みられ、焼成度合いや胎土も勘案すると、9世紀前半は16点、9世紀後半は14点、10世紀前半は15点認められる。

2 愛媛県における緑釉陶器

(1) 愛媛県内の緑釉陶器研究と課題

愛媛県の緑釉陶器研究の現状

愛媛県内の緑釉陶器研究は、県内出土資料の資料集成を中心に行われてきた。宮内慎一氏は愛知県陶磁美術館によって行われた集成(25遺跡を集成)を参考に(愛知県陶磁美術館編1998)、2000年以前に緑釉陶器が出土している松山市内の遺跡(14遺跡)では、松山市来住廃寺を含む来住台地周辺で全体の半数となる7遺跡確認されていることを指摘した(宮内1998)。小黒裕二氏と橋本貴登氏は、愛媛県内でも有数の施釉陶器の出土量を誇る今治市阿方春岡遺跡の整理作業を契機に、県内の施釉陶器が出土した遺跡の集成(33遺跡を集成)を試みた。施釉陶器は松山平野と今治平野の2地域に集中し、出土点数に限れば今治平野が突出していることを指摘し、古代においては今治平野が政治・経済の中心であったことを証明する結果と論じた(小黒・橋本2003)。その後、池尻伸吾氏は旗屋遺跡Ⅱで出土した灰釉陶器長頸瓶の出土を契機に、県内の施釉陶器の出土状況を集成(62遺跡72地点を集成)し、器種別の保有状況に着目して整理し直した(池尻2018)。

課題と目的

これまでの愛媛県内の緑釉陶器研究は集成を中心に行われてきた。集成以外では、池尻氏によって器種別の保有状況が示されたのみであり、愛媛県内の緑釉陶器研究は低調であるといえる。そのため、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査で出土した緑釉陶器の評価を試みるには、県内の緑釉陶器の出土状況を把握し、それらの器種や産地、時期を考証する必要がある。

よって、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査で出土した緑釉陶器の評価をするために、以下の分析を行う。まず、緑釉陶器が出土している愛媛県内の遺跡を再度集成し、器種別の点数を把握する。次に、出土した緑釉陶器を時期別に整理し、各遺跡の消長を時期別の出土点数とともに示し、緑釉陶器の産地ごとの出土点数についても分析する。さらに、100㎡あたりの出土点数から愛媛県内の緑釉陶器が出土する遺跡の性格などについて検討する。

(2) 愛媛県内出土の緑釉陶器

緑釉陶器出土遺跡の分布

愛媛県内では、緑釉陶器は86遺跡98地点で出土している(図5)。報告書に実測図として掲載されていないが、未報告資料として緑釉陶器の出土点数が記載されている点数および筆者が資料調査で行った際に確認した未報告資料の点数を合わせると、合計697点出土している²⁾。

緑釉陶器が出土した遺跡の分布をみると、従来から指摘されているように、松山平野と今治平野に集中している。今治平野では、伊予国分寺周辺(16～19)、蒼社川右岸域(20～24)、日高丘陵東麓(25～31)、近見丘陵南部(32～35)、松山平野では和気・堀江周辺(42～46)、道後城北～石手川右岸(48～54、56)、石手川左岸(57～61)、南江戸(62～69)、石井～北井門(72～76)、来住台地(77～81)で分布のまとまりがみられる。出土点数は今治平野が圧倒的に多く、国府有力推定地の一つである今治市八町遺跡・同市八町1号遺跡では、未報告資料も含め204点出土している。また、瀬戸内海交通の要衝である来島海峡に面した今治市糸大谷遺跡では100点、官人層の居宅の可能性が想定されている今治市阿方春岡遺跡では56点出土している。一方、松山平野では、10点以上出土している遺跡は平田七反地遺跡、樽味四反地遺跡、旗屋遺跡Ⅱしかなく、ほとんどの遺跡は3点未満である。

器種別の保有点数(図6)

器種別にみると、椀と皿の出土が圧倒的に多く、小椀、小杯、耳皿、壺、瓶は非常に少ない。耳皿は箸台と指摘され(伊藤2023)、儀式・儀礼の場で使用された器種である。耳皿は今治平野を中心に確認でき、その他の地域では松山平野で2点出土している。官的施設の中でも中心的な官衙関連遺跡や寺院関連施設で認められる。袋物(壺か瓶)は、愛媛県内の灰釉陶器長頸瓶の例になるが、池尻氏によると、灰釉陶器長頸瓶を保有する遺跡は、各郡の主要な官的施設や寺院関連施設を中心に認められるという(池尻2018)。緑釉陶器の壺や瓶が出土している遺跡は、別名寺谷Ⅰ遺跡や八町遺跡のように直接的に官衙関連の性格が指摘されている遺跡や官衙関連施設の周辺域とみられる遺跡で認められるため、灰釉陶器長頸瓶の出土と同様のことが指摘できる。しかしながら、その出土量は灰釉陶器長頸瓶よりも少ない。

時期別にみた緑釉陶器(図7・8)

愛媛県内では、9世紀～10世紀に位置付けられる緑釉陶器が出土しており、9世紀前半は19点、9世紀後半は143点、10世紀前半は157点、10世紀後半は55点確認できる。9世紀前半はその他の時期と比べると、出土数が非常に少ないなか、今治平野を中心に出土している。その中でも蒼社川右岸域の八町・四村地域や伊予国分寺周辺域では出土数がやや多い。9世紀後半では、緑釉陶器の出土数及び出土遺跡数が前時期よりも飛躍的に増加し、今治平野だけでなく、松山平野や今治平野を除いた東予地域でも認められる。しかしながら、緑釉陶器を多数保有しているのは今治平野に所在する遺跡であり、八町1号遺跡2次調査地点では20点、阿方春岡遺跡では15点みられる。その他の地域では、松山市樽味四反地遺跡5次調査地点と同市平田七反地遺跡で5点確認できる以外は1～2点ほどしか出土していない。10世紀前半は、出土数は前時期より若干増加しているが、出土遺跡数は減少している。今治平野では、前時期に緑釉陶器が出土していた遺跡では10世紀前半も出土数がほぼ同数もしくは増加している事例が多い。一方、松山平野では、10世紀前半の緑釉陶器が出土している遺跡および出土数は前時期よりも減少し、9世紀後半～10世紀前半にかけて緑釉陶器を保有している遺跡が少なくなる。つまり、今治平野では9世紀後半～10世紀前半にかけて緑釉陶器を保持し続ける遺跡が多いのに対し、松山平野では9世紀後半に緑釉陶器を保有していた遺跡は、一部の遺跡しか10世紀前半頃の緑釉陶器を入手できないことが伺える。松山平

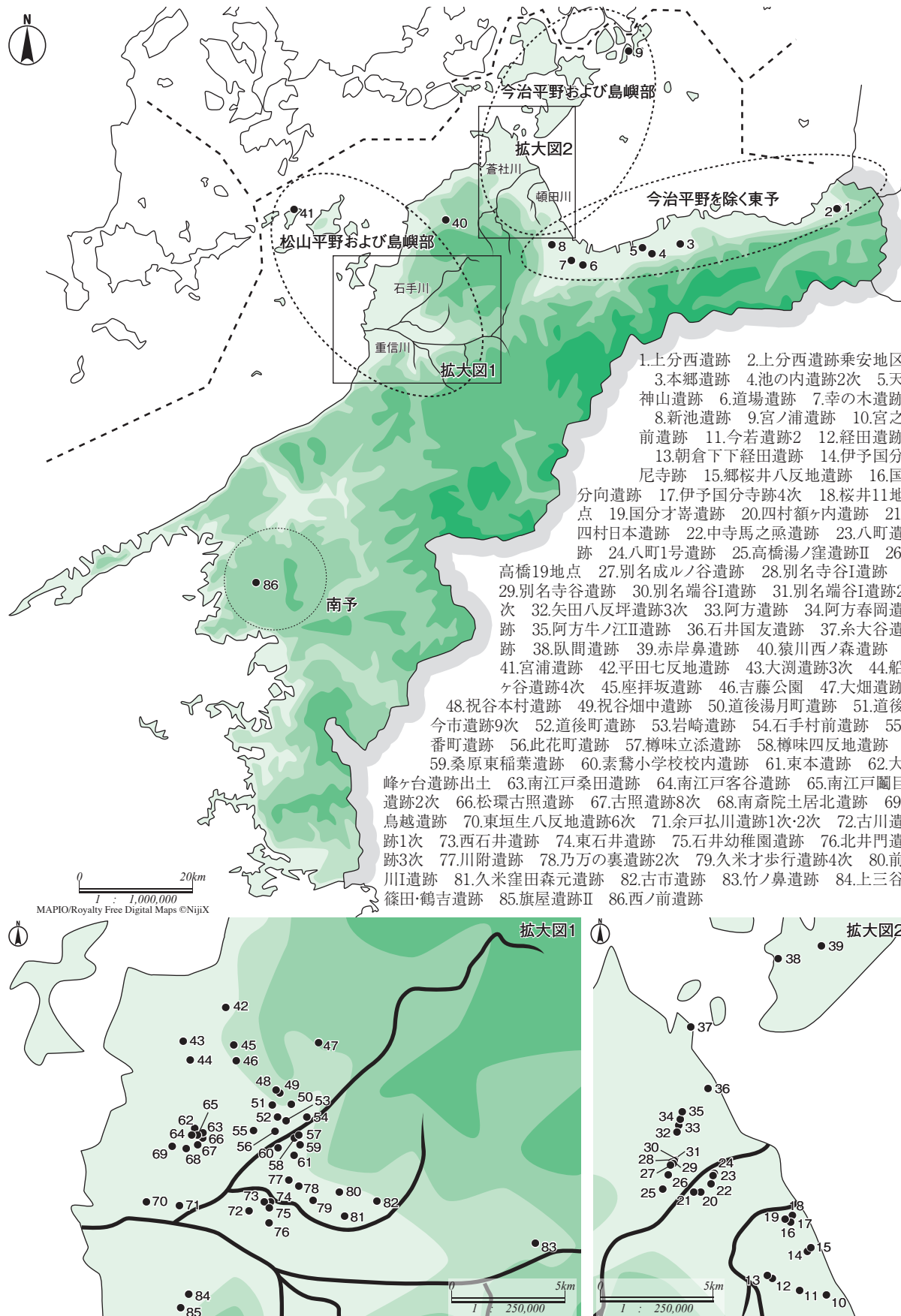


図5 緑釉陶器出土遺跡

番号	遺跡名	甌	小 甌	小 杯	皿	耳 皿	甌か皿	壺	瓶	不明	未報告	合計	番号	遺跡名	甌	小 甌	小 杯	皿	耳 皿	甌か皿	壺	瓶	不明	未報告	合計										
1	上分西遺跡	1										1	48	祝谷本村遺跡				1							1										
2	上分西遺跡乗安地区	1										1	49	祝谷畑中遺跡	2										2										
3	本郷遺跡	4			2							1	7	50	道後湯月町遺跡					1					1										
	本郷遺跡3次	1										1	51	道後今市遺跡9次		1									1										
4	池の内遺跡2次	1										1	52	道後町遺跡				1							1										
5	天神山遺跡	2			1							3	53	道後町遺跡Ⅱ											3										
6	道場遺跡	2										2	53	岩崎遺跡	7			1		1					9										
7	幸の木遺跡	9			1							10	54	石手村前遺跡										5	5										
8	新池遺跡				1							1	55	番町遺跡	2										2										
9	宮ノ浦遺跡	9	1		7							17	56	此花町遺跡	3										1										
10	宮之前遺跡	1										1	57	榑味立添遺跡4次	1										1										
11	今若遺跡2	3			3							5	11	榑味四反地遺跡	3										3										
12	経田遺跡	1										1	1	榑味四反地遺跡5次	3			2		5					10										
13	朝倉下下経田遺跡	3										3	3	榑味四反地遺跡6次							1				1										
14	伊予国分尼寺遺跡	2			1		3					6	58	榑味四反地遺跡10次	1										1										
15	郷桜井八反地遺跡	1			1							2	2	榑味四反地遺跡12次	1										1										
16	国分向遺跡	1			1							5	7	榑味四反地遺跡15次						3					3										
17	伊予国分寺跡4次	6			2							8	8	榑味四反地遺跡19次	1						1				2										
18	桜井11地点	1				1						2	2	榑味四反地遺跡20次	1										1										
19	国分才寄遺跡	1										1	59	桑原東稲葉遺跡1次調査										1	1										
20	四村額ヶ内遺跡	11			1							4	16	桑原東稲葉遺跡2次調査	2										2										
21	四村日本遺跡		1		1							1	3	60	素鷲小学校校内遺跡						1					1									
22	中寺馬之吸遺跡	1			3			1				5	61	東本遺跡6次	2										2										
23	八町遺跡	2			1							48	51	62	大峰ヶ台丘陵客谷地区	1										1									
24	八町1号遺跡2次	11			4	2	25					62	104	63	南江戸桑田遺跡						1	1			2										
	八町1号遺跡3次	7			6							22	35	64	南江戸客谷遺跡				1						1										
	八町1号遺跡4次	2			2	1						11	14	65	南江戸蘭目遺跡2次	1									1										
25	高橋湯ノ窪遺跡Ⅱ	1										1	66	66	松環古照遺跡								1		1										
26	日高19地点						1					1	67	67	古照遺跡8次	1									1										
27	別名成ルノ谷遺跡	1										1	68	68	南斎院土居北遺跡							1			1										
28	別名寺谷Ⅰ遺跡	6			15	2			1			24	69	69	鳥越遺跡			1							1										
29	別名寺谷遺跡	6										6	70	70	東垣生八反地遺跡6次	2									2										
30	別名端谷Ⅰ遺跡					1						1	71	71	余戸私川遺跡1・2次									1	1										
31	別名端谷Ⅰ遺跡2次											1	72	72	古川遺跡1次				3						3										
32	矢田八反坪遺跡3次	1										1	73	73	西石井遺跡	1			1						2										
33	阿方遺跡						1					1	74	74	東石井遺跡				1						1										
34	阿方春岡遺跡	26			3	1						26	56	75	石井幼稚園遺跡	1			1	1						3									
35	阿方牛ノ江Ⅱ遺跡							1				5	6	76	76	北井門遺跡3次	2		1						3										
36	石井国友遺跡	8			3		3					14	77	77	川附遺跡	1	1								2										
37	糸大谷遺跡	27	1		18	1	14					39	100	78	78	乃万の裏遺跡2次					2				2										
38	臥間遺跡	2										3	5	79	79	久米才歩行遺跡4次	1								1										
39	赤岸鼻遺跡	1										1	80	80	前川Ⅰ遺跡				1						1										
40	猿川西ノ森遺跡	1			1							2	81	81	久米窪田森元遺跡3次	3							1		4										
41	宮浦遺跡	6			2		1					9	82	82	久米窪田森元遺跡4次	4									4										
42	平田七反地遺跡	15			2		7					24	82	82	古市遺跡1次	1									1										
43	大洞遺跡3次	2										2	83	83	竹ノ鼻遺跡	1					1				2										
44	船ヶ谷遺跡4次				1							1	84	84	上三谷篠田・鶴吉遺跡	1									1										
45	座拝坂遺跡	1			1							2	85	85	旗屋遺跡Ⅱ	2									2										
46	吉藤公園						2					2	86	86	西ノ前遺跡	2									2										
47	大畑遺跡	1										1	総計												243	5	1	97	10	73	4	1	2	261	69

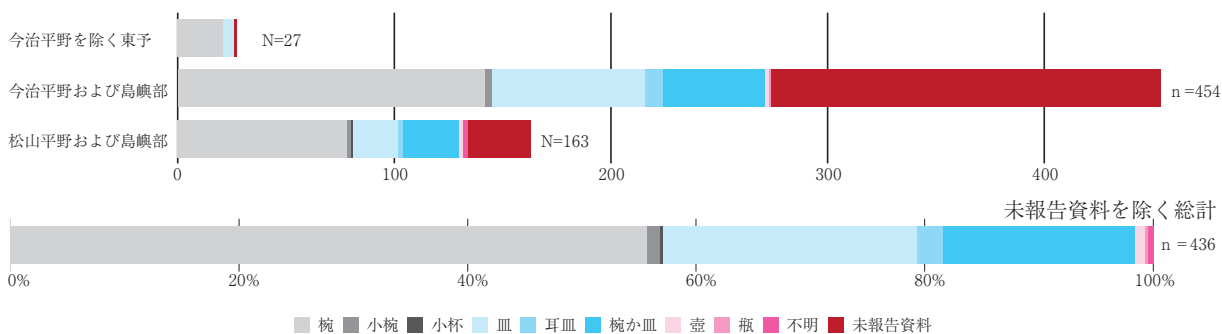


図6 緑釉陶器種別出土点数および割合

野では9世紀後半と10世紀前半において、一部の遺跡を除き、緑釉陶器を入手できる階層や勢力に何らかの変化があった可能性が想定される。緑釉陶器の出土数や遺跡数だけでなく、保有のあり方に関して、今治平野と松山平野では地域差が存在していることが指摘でき、この地域差の要因として、今治平野に国府が所在していたことが考えられる。今治市糸大谷遺跡ではこの時期の緑釉陶器が40点出土しており、他の遺跡よりも出土数が多い。10世紀後半は、緑釉陶器の出土数および遺跡数はともに前時期よりも減少している。しかしながら、今治平野では前時期と変わら

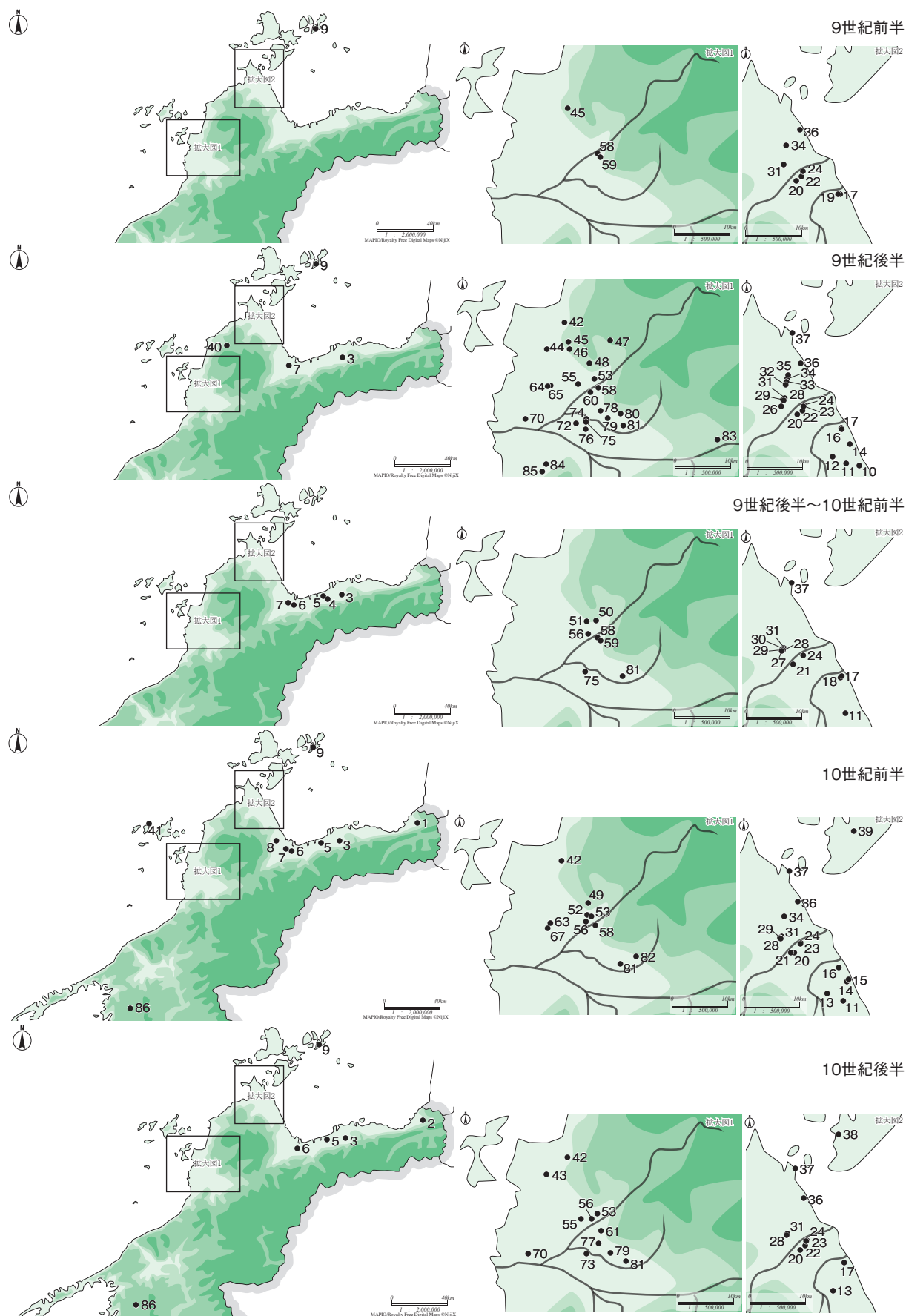


図7 緑釉陶器出土遺跡時期別分布図

番号	遺跡名	9C 前半	9C 後半	9C	9C後半 ～10C前半	10C 前半	10C 後半	10C	不明	番号	遺跡名	9C 前半	9C 後半	9C	9C後半 ～10C前半	10C 前半	10C 後半	10C	不明
1	上分西遺跡					1				48	祝谷本村遺跡		1						
2	上分西遺跡乗安地区						1			49	祝谷畑中遺跡					2			
3	本郷遺跡		1		1	3	1			50	道後湯月町遺跡				1				
4	本郷遺跡3次		1							51	道後今市遺跡9次				1				
5	池の内遺跡2次				1					52	道後町遺跡					1			
6	天神山遺跡				1	1	1			53	道後町遺跡Ⅱ								
7	道場遺跡				1	1	1			54	岩崎遺跡		3				4	2	
8	幸の木遺跡		1		5	4				55	石手村前遺跡								
9	新池遺跡					1				56	香町遺跡		1					1	
10	宮ノ浦遺跡	1	1			5	10			57	此花町遺跡				1	1	1		
11	宮之前遺跡		1							58	梅味立遺跡4次		1						
12	今若遺跡2		1		1	4					梅味四反地遺跡		2			1			
13	経田遺跡		1								梅味四反地遺跡5次	1	5	1	1	2			
14	朝倉下下経田遺跡					2	1				梅味四反地遺跡6次		1						
15	伊予国分寺遺跡		4			1		1			梅味四反地遺跡10次					1			
16	郷桜井八反地遺跡					1			1		梅味四反地遺跡12次					1			
17	国分向遺跡			1		1					梅味四反地遺跡15次		1			2			
18	伊予国分寺遺跡4次	2	4		1		1				梅味四反地遺跡19次					2			
19	桜井11地点				1		1				梅味四反地遺跡20次					1			
20	国分才寄遺跡	1								59	桑原東稲葉遺跡1次調査					1			
21	四村額ヶ内遺跡	2	3			5	1		1		桑原東稲葉遺跡2次調査	1							
22	四村日本遺跡				1	1				60	素鷲小学校校内遺跡		1						
23	中寺馬之蔵遺跡	1	2	1			1			61	束本遺跡6次						2		
24	八町遺跡		1			1	2			62	大峰ヶ台丘陵客谷地区								1
25	八町1号遺跡2次	5	20		3	6	10			63	南江戸桑田遺跡					1			1
26	八町1号遺跡3次		6			4	3			64	南江戸客谷遺跡		1						
27	八町1号遺跡4次		1		1	1				65	南江戸圃日遺跡2次		1						
28	高橋湯ノ窪遺跡Ⅱ		1							66	松環古照遺跡								1
29	日高19地点		1							67	古照遺跡8次					1			
30	別名成ルノ谷遺跡				1					68	南斎院土居北遺跡			1					
31	別名寺谷Ⅰ遺跡		8		5	10				69	鳥越遺跡			1					
32	別名寺谷遺跡		1		1	3	1			70	東垣生八反地遺跡6次		1				1		
33	別名端谷Ⅰ遺跡				1					71	余戸弘川遺跡1・2次								
34	別名端谷Ⅱ遺跡2次									72	古川遺跡1次		3						
35	矢田八反坪遺跡3次		1							73	西石井遺跡						2		
36	阿方遺跡		1							74	東石井遺跡		1						
37	阿方春岡遺跡	2	15			13				75	石井幼稚園遺跡		1		2				
38	阿方牛ノ江Ⅱ遺跡		1							76	北井門遺跡3次		3						
39	石井国友遺跡	2	8	1		1	2			77	川附遺跡						1		1
40	糸大谷遺跡		10		2	40	5		4	78	乃万の裏遺跡2次		2						
41	臥間遺跡						2			79	久米才歩行遺跡4次						1		
42	赤岸鼻遺跡					1				80	前川Ⅰ遺跡		1						
43	猿川西ノ森遺跡		2							81	久米窪田森元遺跡3次		1		2		1		
44	宮浦遺跡			4		1			4	82	久米窪田森元遺跡4次					2	1		1
45	平田七反地遺跡		5			14	4		1	83	古市遺跡1次					1			
46	大淵遺跡3次						2			84	竹ノ鼻遺跡		2						
47	船ヶ谷遺跡4次		1							85	上三谷篠田・鶴吉遺跡		1						
	座拝坂遺跡	1	1							86	旗屋遺跡Ⅱ		2						
	吉藤公園		2								西ノ前遺跡					1	1		
	大畑遺跡		1								総計	19	143	9	36	151	62	1	16

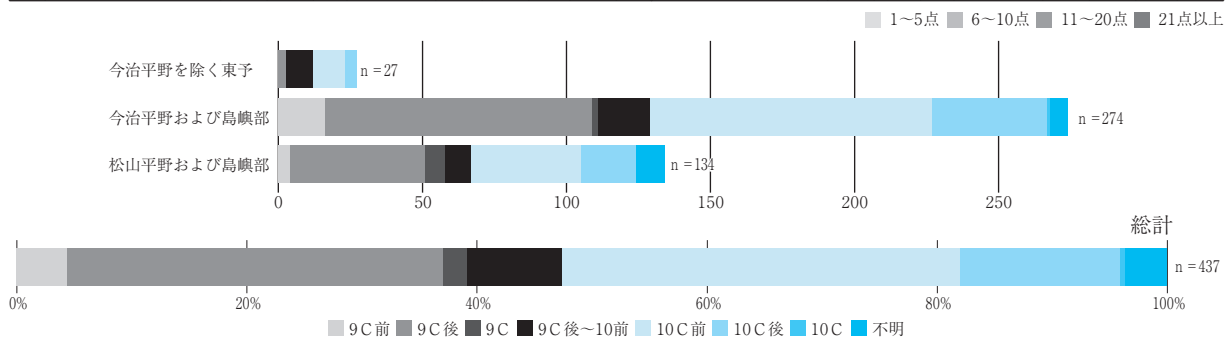


図8 緑釉陶器時期別出土点数と割合

ず緑釉陶器の出土量が他の地域よりも多いという特徴がある。その他の地域では、松山市平田七反地遺跡の4点を除き、1～2点ほどしか出土していない。

産地別からみた緑釉陶器(図9)

平安期の緑釉陶器生産地は、平安京近郊(以下では京都とする)、東海、近江、防長の4地域がある。愛媛県では、これらのうち京都産355点、東海産4点、近江産63点、防長産1点を確認できる。京都産が84%占めているが、時期別にみると9世紀～10世紀前半は京都産が中心であり、一

部東海産がみられ、10世紀後半は近江産が主体を占める。これは、高橋照彦氏が指摘するように、西日本は畿内産(京都産)が多数を占め、10世紀中頃には近江産が急速に生産量を増すことにより、西日本地域では畿内産に替わって近江産が主体を占めるという生産地の動向やその供給先を反映しており(高橋1995a)、伊予も西日本地域と同様の傾向を示している。注目されるのは防長産緑釉陶器の出土であり、防長産緑釉陶器は長門・周防周辺域や太宰府を中心とする北部九州地域を中心に供給され、生産地から東に目を向けると、平安京や国府推定地でしか出土していない。伊予では、島嶼部に所在する宮ノ浦遺跡で1点出土しているが、国府有力推定地の一つである八町遺跡をはじめ、伊予本土では1点も確認できない。

100㎡あたりの緑釉陶器の出土点数(表1)

これまでの分析では、出土点数を扱ってきた。単純なことではあるが、発掘調査面積が広いほど出土遺物は増加する傾向があり、調査面積が広くて緑釉陶器の出土が多い遺跡と面積が狭くて緑釉陶器の出土が多い遺跡では、遺跡の性格や調査地点の性格などを踏まえて検討する必要がある。高橋氏は平安京や地方の100㎡あたりにおける緑釉陶器の出土点数を分析し(図10)、地方では国府周辺に緑釉陶器が集中して出土する傾向があり、国府周辺を結節点として、高級陶器の流通や保有がなされていたことを想定した。そして、国府域でも、地区によって出土量の多寡に差異が生じるため、出土地点差などを考慮する必要がある、官衙遺跡といっても郡衙一般での保有量は必ずしも突出していないことを指摘した(高橋2015)。

番号	遺跡名	京都	東海	近江	防長	不明	番号	遺跡名	京都	東海	近江	防長	不明
1	上分西遺跡	1					48	祝谷本村遺跡	1				
2	上分西遺跡乗安地区			1			49	祝谷畑中遺跡	2				
3	本郷遺跡	5		1			50	道後湯月町遺跡	1				
4	本郷遺跡3次	1					51	道後今市遺跡9次	1				
5	池の内遺跡2次	1					52	道後町遺跡	1				
6	天神山遺跡	2		1			53	道後町遺跡Ⅱ					
7	道場遺跡	2		1			54	岩崎遺跡	7		2		
8	幸の木遺跡	10					55	石手村前遺跡					
9	新池遺跡	1					56	香町遺跡	1		1		
10	宮ノ浦遺跡	7		9	1		57	此花町遺跡	2		1		
11	宮ノ浦遺跡	1					58	樽味立添遺跡4次	1				
12	今若遺跡2	6					59	樽味四反地遺跡	3				
13	経田遺跡	1					60	樽味四反地遺跡5次	10				
14	朝倉下下経田遺跡	2		1			61	樽味四反地遺跡6次	1				
15	伊予国分尼寺遺跡	5				1	62	樽味四反地遺跡10次	1				
16	郷桜井八反地遺跡	1				1	63	樽味四反地遺跡12次	1				
17	国分向遺跡	1	1				64	樽味四反地遺跡15次	3				
18	伊予国分寺跡4次	7		1			65	樽味四反地遺跡19次	2				
19	桜井11地点	1		1			66	樽味四反地遺跡20次	1				
20	国分寺寄遺跡	1					67	桑原東稲葉遺跡1次調査					
21	四村額ヶ内遺跡	9		2		1	68	桑原東稲葉遺跡2次調査	2				
22	四村日本遺跡	2					69	素戔小学校校内遺跡	1				
23	中寺馬之頭遺跡	3	1	1			70	東本遺跡6次			2		
24	八町遺跡	2		2			71	大峰ヶ台丘陵客谷地区					1
25	八町1号遺跡2次	31	2	8			72	南江戸桑田遺跡	1				1
26	八町1号遺跡3次	10		3			73	南江戸客谷遺跡	1				
27	八町1号遺跡4次	3					74	南江戸蘭目遺跡2次	1				
28	高橋湯ノ窪遺跡Ⅱ	1					75	松環古照遺跡					1
29	日高19地点	1					76	古照遺跡8次	1				
30	別名成ルノ谷遺跡	1					77	南斎院土居北遺跡	1				
31	別名寺谷Ⅰ遺跡	24					78	鳥越遺跡	1				
32	別名寺谷遺跡	5		1			79	東垣生八反地遺跡6次	1		1		
33	別名端谷Ⅰ遺跡	1					80	余戸私川遺跡1・2次					
34	別名端谷Ⅰ遺跡2次						81	古川遺跡1次	3				
35	矢田八反坪遺跡3次	1					82	西石井遺跡			2		
36	阿方遺跡	1					83	東石井遺跡	1				
37	阿方春岡遺跡	30					84	石井幼稚園遺跡	3				
38	阿方牛ノ江Ⅱ遺跡	1					85	北井門遺跡3次	3				
39	石井国友遺跡	11		3			86	川附遺跡			1		1
40	糸大谷遺跡	55		5	4		87	乃万の妻遺跡2次	2				
41	臥間遺跡			2			88	久米才歩行遺跡4次			1		
42	赤岸鼻遺跡	1					89	前川Ⅰ遺跡	1				
43	猿川西ノ森遺跡	2					90	久米窪田森元遺跡3次	3		1		
44	宮浦遺跡	5				4	91	久米窪田森元遺跡4次	2		1		1
45	平田七反地遺跡	19		4	1		92	古市遺跡1次	1				
46	大洲遺跡3次			2			93	竹ノ鼻遺跡	2				
47	船ヶ谷遺跡4次	1					94	上三谷篠田・鶴吉遺跡	1				
48	座拝坂遺跡	2					95	旗屋遺跡Ⅱ	2				
49	吉藤公園	2					96	西ノ前遺跡	1		1		
50	大畑遺跡	1					97	総計	355	4	63	1	17

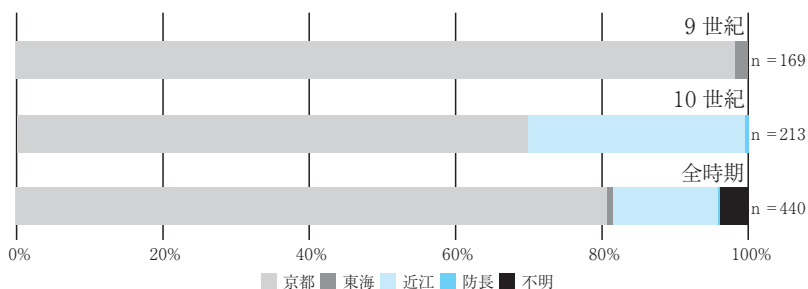


図9 緑釉陶器産地別出土点数と割合

表1 100㎡あたりの緑釉陶器の出土点数

番号	遺跡名	出土 点数	調査面積 (㎡)	100㎡あたりの 出土点数(点/㎡)	番号	遺跡名	出土 点数	調査面積 (㎡)	100㎡あたりの 出土点数(点/㎡)
1	上分西遺跡	1	15990	0.01	48	祝谷本村遺跡	1		
2	上分西遺跡乗安地区	1	14199	0.01	49	祝谷畑中遺跡	2		
3	本郷遺跡	7	360	1.95	50	道後湯月町遺跡	1	177.2	0.57
3	本郷遺跡3次	1	1780	0.06	51	道後今市遺跡9次	1	652.6	0.16
4	池の内遺跡2次	1	12914	0.01	52	道後町遺跡	1	3450	0.03
5	天神山遺跡	3	10500	0.03		道後町遺跡Ⅱ			
6	道場遺跡	2	1455.5	0.14	53	岩崎遺跡	9	13000	0.07
7	幸の木遺跡	10	10800	0.1	54	石手村前遺跡	5	340	1.48
8	新池遺跡	1	1300	0.08	55	番町遺跡	2	1017.5	0.2
9	宮ノ浦遺跡	17	454.7	3.74	56	此花町遺跡	4	751.715	0.54
10	宮ノ前遺跡	1	1100	0.1	57	樽味立添遺跡4次	1	174	0.58
11	今若遺跡2	11	33258	0.04		樽味四反地遺跡	3	1500	0.2
12	経田遺跡	1	38792	0.01		樽味四反地遺跡5次	10	2146	0.47
13	朝倉下下経田遺跡	3	37322	0.01		樽味四反地遺跡6次	1	999	0.11
14	伊予国分寺遺跡	6	1059	0.57		樽味四反地遺跡10次	1	120	0.84
15	郷校井八反地遺跡	2	1000	0.2		樽味四反地遺跡12次	1	201	0.5
16	国分向遺跡	7	755	0.93		樽味四反地遺跡15次	3	220	1.37
17	伊予国分寺跡4次	8	446	1.8		樽味四反地遺跡19次	2	290	0.69
18	桜井11地点	2	1093	0.19		樽味四反地遺跡20次	1	143	0.7
19	国分才寄遺跡	1	27	3.71		桑原東稲葉遺跡1次調査	1	188	0.54
20	四村額ヶ内遺跡	16	700	2.29	59	桑原東稲葉遺跡2次調査	2	619	0.33
21	四村日本遺跡	3	500	0.6	60	素養小学校校内遺跡	1	1200	0.09
22	中寺馬之原遺跡	5	600	0.84	61	東本遺跡6次	2	328	0.61
23	八町遺跡	51	6590	0.78	62	大峰ヶ台丘陵客谷地区	1		
24	八町1号遺跡2次	104	1432	7.27	63	南江戸桑田遺跡	2	1900	0.11
	八町1号遺跡3次	35	500	7	64	南江戸客谷遺跡	1	864	0.12
	八町1号遺跡4次	14	282	4.97	65	南江戸蘭日遺跡2次	1	3550	0.03
25	高橋湯ノ窪遺跡Ⅱ	1	849	0.12	66	松環古照遺跡	1	16100	0.01
26	日高19地点	1	423	0.24	67	古照遺跡8次	1	3920	0.03
27	別名成ルノ谷遺跡	1	1200	0.09	68	南斎院土居北遺跡	1	2886	0.04
28	別名寺谷Ⅰ遺跡	24	6440	0.38	69	鳥越遺跡	1	983.88	0.11
29	別名寺谷遺跡	6	194.67	3.09	70	東垣生八反地遺跡6次	2	124.22	1.62
30	別名端谷Ⅰ遺跡	1	3060	0.04	71	余戸私川遺跡1・2次	1	4130	0.03
31	別名端谷Ⅰ遺跡2次				72	古川遺跡1次	3	307.28	0.98
32	矢田八反坪遺跡3次	1	3200	0.04	73	西石井遺跡	2	5799.7	0.04
33	阿方遺跡	1	2000	0.05	74	東石井遺跡	1	4800	0.03
34	阿方春岡遺跡	56	3200	1.75	75	石井幼稚園遺跡	3	430	0.7
35	阿方牛ノ江Ⅱ遺跡	6	11600	0.06	76	北井門遺跡3次	3	9898	0.04
36	石井国友遺跡	14	1080	1.3	77	川附遺跡	2	495	0.41
37	糸大谷遺跡	100	10060	0.99	78	乃万の裏遺跡2次	2	2475	0.09
38	臥間遺跡	5	3000	0.17	79	久米才歩行遺跡4次	1	1095	0.1
39	赤岸鼻遺跡	1	560	0.18	80	前川Ⅰ遺跡	1	1200	0.09
40	猿川西ノ森遺跡	2	9700	0.03	81	久米窪田森元遺跡3次	4	902	0.45
41	宮浦遺跡	9	500	1.8		久米窪田森元遺跡4次	4	1330.01	0.31
42	平田七反地遺跡	24	6400	0.38	82	古市遺跡1次	1	2910	0.04
43	大洞遺跡3次	2	34159	0.01	83	竹ノ鼻遺跡	2	7000	0.03
44	船ヶ谷遺跡4次	1	2881	0.04	84	上三谷篠田・鶴吉遺跡	1	22619	0.01
45	座拝坂遺跡	2	995	0.21	85	旗屋遺跡Ⅱ	23	1050	2.2
46	吉藤公園	2	800	0.25	86	西ノ前遺跡	2	109.5	1.83
47	大畑遺跡	1	1027	0.1					

■ 0.1未満 ■ 0.1～0.5未満 ■ 0.5～1.0未満 ■ 1.0～3.0未満 ■ 3.0～5.0未満 ■ 5.0以上 調査面積が不明な遺跡は空白

以上～3.0点未満出土している遺跡は新居浜市本郷遺跡、伊予国分寺跡、四村額ヶ内遺跡、阿方春岡遺跡、石井国友遺跡(以上今治市)、宮浦遺跡、石手村前遺跡、樽味四反地遺跡、東垣生八反地遺跡(以上松山市)、伊予市旗屋遺跡Ⅱ、西予市西ノ前遺跡がある。樽味四反地遺跡と東垣生八反地遺跡は、数次に伴う発掘調査が行われているため、これらの調査面積を踏まえると数値は1.0以下になると思われ、西ノ前遺跡と宮ノ浦遺跡は愛媛大学による学術調査が行われた遺跡であり、発掘調査面積が狭いことから数値が大きくなっていることが想定される。しかしながら、宮ノ浦遺跡は数値が小さくなったとしても、1.0点を下回ることはないと考えられる。宮ノ浦遺跡は、1158(保元3)年に石清水八幡宮の荘園として取り込まれた遺跡であり、古代後半から畿内系黒色土器A類・B類、越州窯系青磁などが出土しており、特に畿内地域と何らかの強い影響関係が伺える遺跡である。西ノ前遺跡も周辺に岩城郷の中心的な施設や岩城廃寺の存在が指摘されている遺跡である。本郷遺跡は、周辺に南海道の新居駅や新居郡衙があったと推定されている。

このように、緑釉陶器が100㎡あたり1.0点以上出土している遺跡は、寺院周辺や国府有力推定

高橋氏の検討を踏まえてみていくと、100㎡あたり緑釉陶器が5.0点以上出土している遺跡は、今治市八町1号遺跡しかなく、本遺跡では7.0点前後出土している。これは、八町1号遺跡が所在する八町地域は、近隣の四村地域とともに伊予国府の有力推定地の一つであることが考えられる。緑釉陶器の出土比率が高いことは、近隣に国府が所在していたとすれば、その存在を反映している可能性がある。100㎡あたり3.0点以上～5.0点未満出土している遺跡は、上島町宮ノ浦遺跡、今治市国分才寄遺跡、同市別名寺谷遺跡があり、1.0点

遺跡名 (性格ほか)		緑釉陶器の出土 点数と調査面積	100㎡あたりの緑釉 陶器の出土点数	遺跡名 (性格ほか)		緑釉陶器の出土 点数と調査面積	100㎡あたりの緑釉 陶器の出土点数
平安京ならびに 周辺出土	平安京内裏 (SK25)	96 点 /45㎡	213.3 点 /100㎡	出雲 国府跡 出土	六所脇 (政庁)	20 点 /360㎡	5.6 点 /100㎡
	藤原良相邸 (西三条第)	52 点 /116㎡	44.8 点 /100㎡		宮の後 (曹司)	71 点 /4276㎡	1.7 点 /100㎡
	斎宮 (伊勢斎王) の邸宅	2187 点 /7556㎡	28.9 点 /100㎡		大舎原 (国司館)	36 点 /6008㎡	0.6 点 /100㎡
	左京二条四坊十町	278 点 /4000㎡	7 点 /100㎡		彼岸田 (工房など)	52 点 /1490㎡	3.5 点 /100㎡
	長岡京跡右京 第 69 次 (平安京外)	68 点 /800㎡	8.5 点 /100㎡		樋ノ口ほか (外縁区域)	0 点 /594㎡	0 点 /100㎡
	長岡京跡右京 第 349 次 (平安京外)	44 点 /2650㎡	1.7 点 /100㎡	遺跡 三田谷 I	94・95 年度調査区	3 点 /4000㎡	0.075 点 /100㎡
					96・97 年度調査区	1 点 /14000㎡	0.007 点 /100㎡
				97・98 年度調査区	5 点 /8950㎡	0.056 点 /100㎡	

図 10 他地域の 100 ㎡あたりの緑釉陶器の出土点数 (高橋 2015 を筆者改変)

地、官衙関連遺跡でも、硯や灰釉陶器、越州窯系青磁などが出土し、識字階層や有力者の存在が想定される遺跡という特徴がある。100㎡あたりの出土点数では、0.1点未満の遺跡が最も多く、次に0.1点以上～0.5点未満が続く。これらの遺跡は緑釉陶器以外の出土遺物の分析や検出された遺構との関係性などから総合的に分析して遺跡の性格を推測する必要がある、これらの遺跡の性格については今後の課題としたい。

(3) 愛媛県内における別名端谷 I 遺跡2次調査の位置付け

愛媛県内と別名端谷 I 遺跡2次調査の出土状況を比較し、本遺跡の特徴を整理する。

出土点数では、愛媛県全体で緑釉陶器は未報告資料を含めて697点確認でき、一つの遺跡で最も出土しているのは八町1号遺跡2次の104点、次に糸大谷遺跡の100点、阿方春岡遺跡の56点、八町遺跡の51点と続き、緑釉陶器が50点以上出土している遺跡は4遺跡しかなく、大半の遺跡は10点未満である。別名端谷 I 遺跡2次調査では201点確認でき、一つの遺跡では愛媛県内最多の出土数を誇る(図11)。また、これまで伊予国府有力推定地であった、八町遺跡・八町1号遺跡で出土した合計点数と近い数である。

時期別の出土点数では、愛媛県全体では9世紀前半の資料数が非常に少なく、9世紀後半になると前時期よりも飛躍的に増加し、10世紀前半は前時期とほぼ同じ数量であり、10世紀後半には減少し、11世紀代のものはみられない。今治平野と松山平野では、緑釉陶器の保有状況に地域差が存在し、1遺跡のなかでも複数時期の緑釉陶器を一定量持ち続ける遺跡は少なく、ある特定の時期の緑釉陶器を多数保有し、その前後の時期のものを少数ながらも持ち続けている遺跡が多いことを指摘した。

別名端谷 I 遺跡2次調査で出土した9世紀前半に位置付けられる緑釉陶器は61点確認され、愛媛県全体で19点しか出土していない状況と比較すると特異といえる。このことは、白釉緑彩陶器や袋物の出土、本稿では触れていないが、K14に位置付けられる灰釉陶器が10点以上出土していることも踏まえて検討する必要がある。

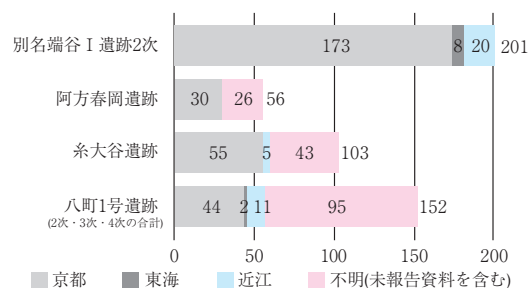


図 11 緑釉陶器出土主要遺跡の産地別数量

また、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査では9世紀後半と10世紀前半のそれぞれの時期の正確な点数を把握できていないが、9世紀～10世紀にかけて各時期ともに20点以上出土していることは明らかであり、9世紀～10世紀前半では、各時期ともに40点以上出土している。複数時期の緑釉陶器が出土している遺跡では、出土量のピークが9世紀後半もしくは10世紀前半であり、そのピークを境に出土量が激減する遺跡が多いのに対し、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査では、9世紀前半のものが多数出土し、その後10世紀前半にかけて40点以上保有し続け、10世紀後半に前時期よりも出土量が減るが、それでも20点以上入手し続けている。つまり、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査では、9世紀～10世紀を通していずれの時期も緑釉陶器を一定量保有し続けており、このような特徴をもつ遺跡は愛媛県内で本遺跡のみである。

産地別では、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査で出土した緑釉陶器は、愛媛県全体の傾向と同じく、京都産が8割以上を占めている。また、時期ごとにみても9世紀代は京都産が主体であり、東海産は1割未満である。10世紀代は、10世紀前半は京都産が中心であり、10世紀後半になると京都産に代わって近江産が主体を占める。愛媛県全体で東海産は4点しか認められないなか、本遺跡では8点出土しているのは注目されるが、全体の1割にも達していない。

100㎡あたりの出土点数では、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査の調査面積は3837.5㎡であり、100㎡あたり5.23点出土している。この数字は八町1号遺跡2次の7.27点、八町1号遺跡3次調査の7.0点に次ぐ大きさであり、国府有力推定地の遺跡に近似した値である。また、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査で緑釉陶器が出土した場所は、大多数が3区から出土しており、3区周辺には何らかの官衙関連施設が存在していたことが想定される。

(3) 小結—緑釉陶器からみた別名端谷Ⅰ遺跡2次調査—

以上、愛媛県内で緑釉陶器が出土した遺跡と別名端谷Ⅰ遺跡2次調査の状況を比較した。本遺跡で出土した緑釉陶器の特徴として、以下のことが指摘できる。

①愛媛県内で最多の出土量を誇り、出土量が特定の時期に偏ることなく、9世紀～10世紀にかけていずれの時期も一定量保有し続け、多様な器種がみられる。

②特に9世紀前半に位置付けられる緑釉陶器が非常に多く、県内初事例となる白釉緑彩陶器や袋物(壺か瓶)の出土が示すように、本遺跡の当該期は県内の出土状況と比較しても特異な状況である。

③100㎡あたりの出土点数において、国府有力推定地の出土点数に次ぐ数値の大きさを示している。

3 土師質土器三足盤

(1) 別名端谷Ⅰ遺跡2次調査出土の土師質土器三足盤の概要

別名端谷Ⅰ遺跡2次調査出土の土師質土器三足盤

土師質土器三足盤は、合計16点出土している(図12、13)。出土している土師質土器三足盤は、いずれも破片資料であり、足のみもしくは底部に足が1本あるいは2本貼り付けられた個体が確認

される。これらの土器が三足付き土器の足である根拠は図12-1の資料である。図12-1は底部に足が2本貼り付けられ、底部中央から足2本の角度がおよそ120度であり、自立するためには残存しているそれぞれの足から120度の位置に足が付くことが想定され、底部に3本足が付く土器と判断した。3本足が付く土器は、緑釉陶器、灰釉陶器、白色土器に類例があり、その器種には盤と火舎がある。本遺跡の出土資料は、底部に足が3本付くものは存在せず、口縁部も残存していない。そのため、全体形を推測することが困難であり、足だけでは盤か火舎、どちらの器種なのか判別が難しい。しかしながら、盤と火舎では底径に大きな違いがある。本遺跡で底径が復元可能であったのは2点しかないが、その復元底径は7.0～7.8cmであり、この底径に近いのは盤である。よって、本遺跡で出土した土師質三足付き土器は、器種として「盤」の可能性が高い。土師質土器三足盤の部位・名称については図14の通りである。

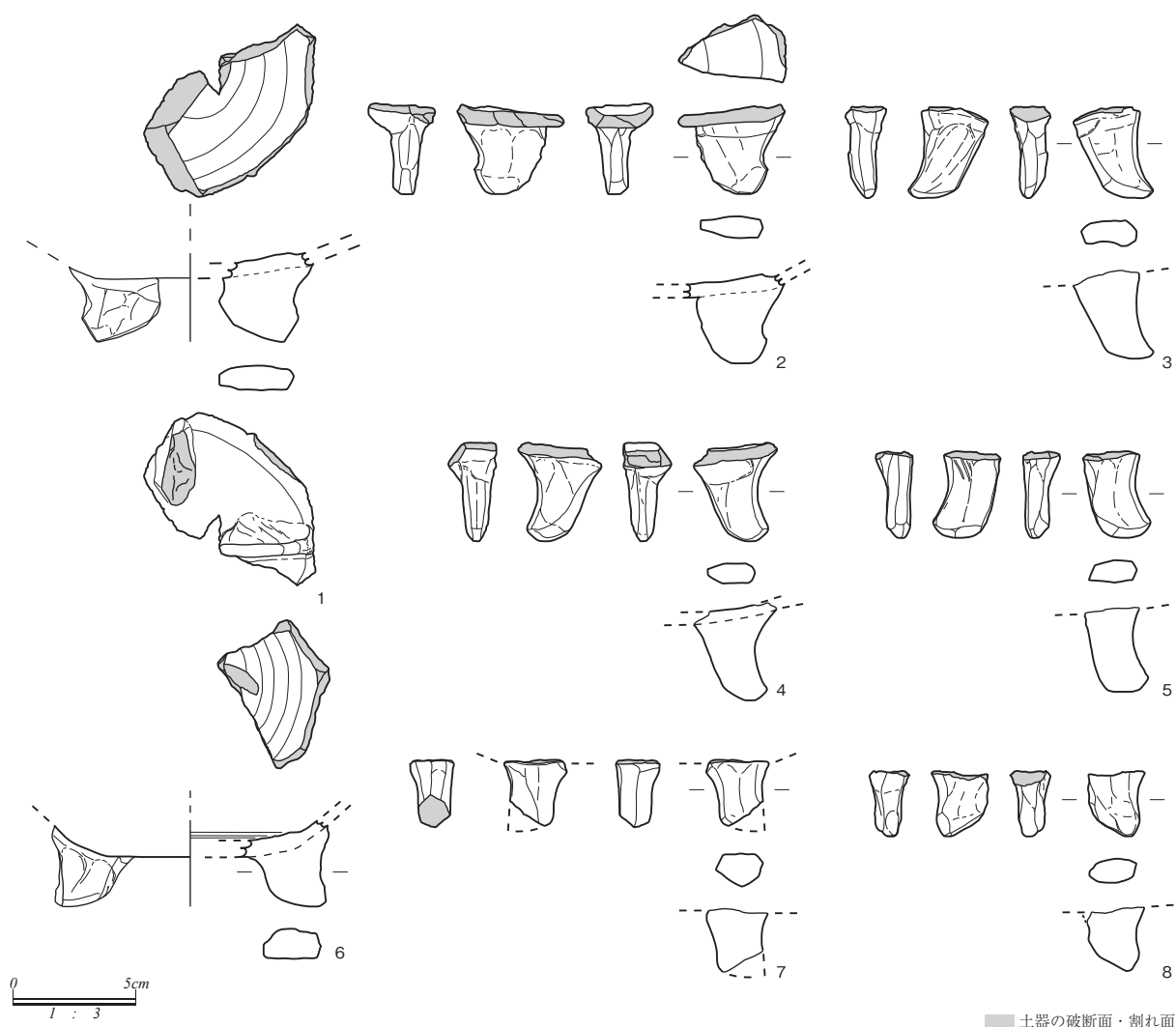


図 12 別名端谷 I 遺跡 2 次出土土師質土器三足盤その 1

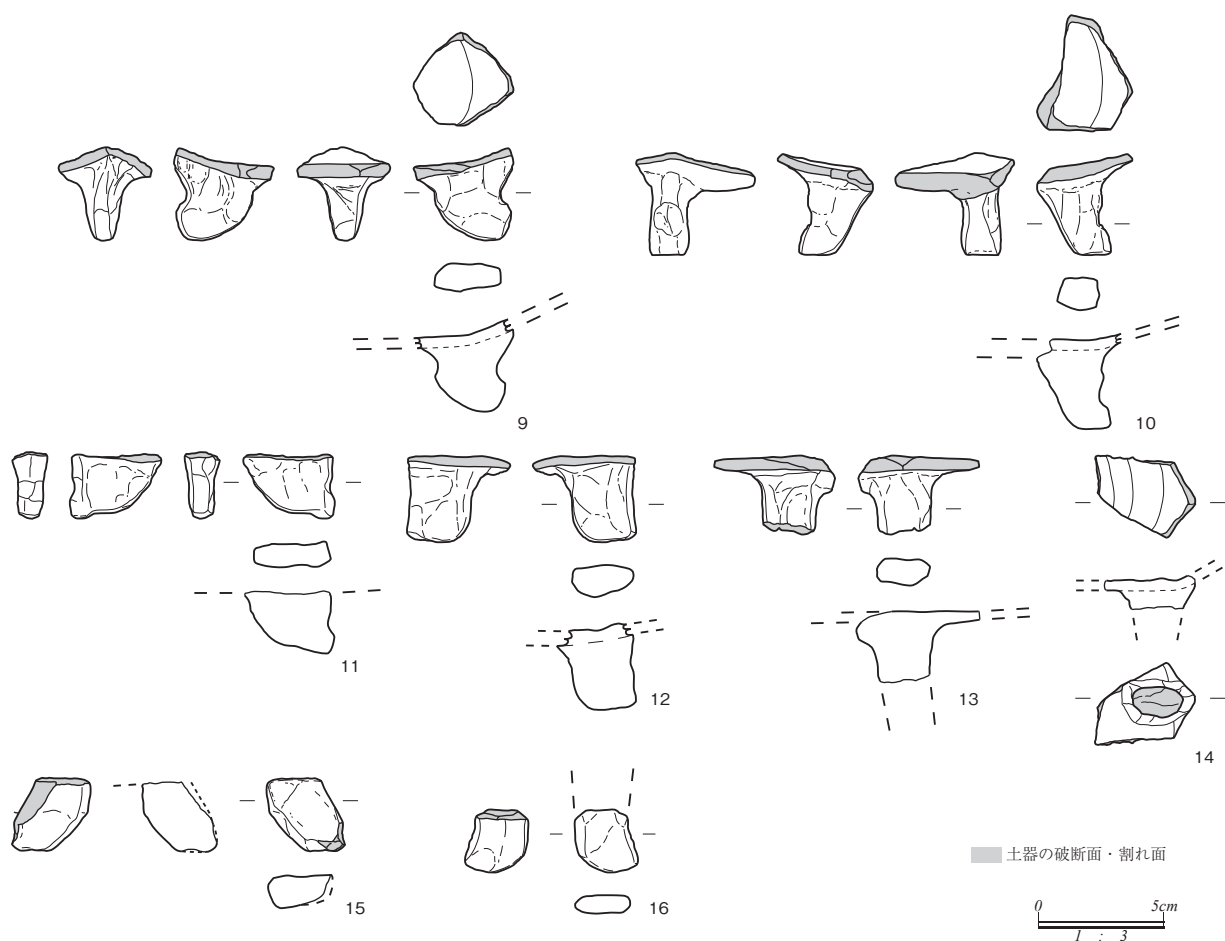


図 13 別名端谷 I 遺跡 2 次出土土師質土器三足盤その 2

(2) 土師質土器三足盤の特徴と時期

土師質土器三足盤の特徴

本遺跡の土師質土器三足盤について、次のような特徴が指摘できる。①杯部および皿部は見込みにロクロ目が観察され(1、2、14など)、一部には底部外面に切り離し時の回転ヘラ切り調整が確認でき、在地の土師質土器杯・皿の製作技法と同じ回転台調整で成形されている。②底部には足が丁寧に貼り付けられ、底部と脚

の付け根付近には左右両側面から前面にかけて丁寧な横位を基調としたやや強いナデ調整、足の左右両側面は縦位を中心とした非常に丁寧なナデ調整が施される。③足の前面や背面には平坦な面がみられるため、何らかの工具による丁寧な面取りがされている。前面は面が一つであるのに対し、背面には面が二つみられるものが主体であり、背面の凹部は基本的に2面の面取りが施される。そして、足の断面形態は前面・背面に角を有した長形を呈した多角形(五角形)の形態が多い。④足の全体形はナデ調整などによって背面に凹みと凸部が作り出され、猫足状を呈してい

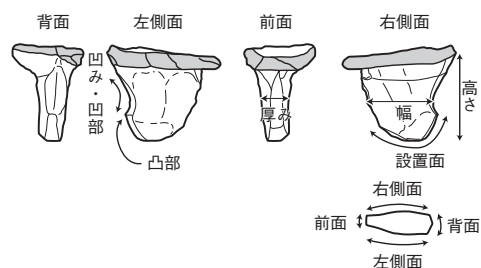


図 14 土師質土器三足盤の部位名称

る。⑤胎土は1mm前後の長石を多く含み、どちらかといえばやや粗い印象を受け、色調は橙色を呈する。

足の形態は大きく4種類に分けられる。A：足の幅が広く、足の高さが高く、背面の凸部が背面中位ほどに位置する形態(1、2、6、9)、B：足の幅が狭く、足の高さが高く、背面の凸部が下位に位置する形態(3、4、5、10)、C：足の幅が狭く、足の高さがやや低く、背面の凸部が下位に位置する形態(7、8、11、12)、D：面取りやナデ調整がやや粗雑であり、足の幅が狭く、高さも低く、背面の凸部が不明瞭な形態(15、16)。

足の形態が時期差を表しているとするならば、A→B→C→Dへの変化が想定される。

土師質土器三足盤の時期

土師質土器三足盤は別名端谷 I 遺跡2次調査の3区でしか出土しておらず、その他の調査区では確認されていない。13はP1057、1～11、14、15は包含層、12、16はSD71から出土している。土師質土器三足盤の多くは包含層出土資料であり、包含層とSD71では9世紀～10世紀に位置付けられる緑釉陶器や灰釉陶器が出土している。P1057は年代が推定可能な遺物がみられないため、明確な時期を指摘できない。

以上より、土師質土器三足盤の時期は9世紀～10世紀ごろの年代が想定される。

(3) 土師質土器三足盤に関する若干の考察

土師質土器三足盤の模倣対象

「盤」は、大きな平たい器や大きな皿、皿状のものを指し、皿の底部に3本の脚がついたものは三足盤と呼称されることが多い。三足付き土器の類例でも提示したように、本遺跡で出土した土師質土器三足盤は、緑釉陶器、灰釉陶器、白色土器の三足盤を模倣したと考えられる。これらの三足盤は、独自に成立したものではなく、金属器由来の器形である(愛知県陶磁美術館学芸課編2022)。つまり、土師質土器三足盤は、金属器の三足盤を模倣した緑釉陶器・灰釉陶器・白色土器三足盤をさらに模倣して成立したことが想定される(図15)。

土師質土器三足盤の製作集団

この土器を製作した集団は、模倣対象物である緑釉陶器、灰釉陶器、白色土器のいずれかを実際に見ながら模倣した可能性がある。本遺跡で出土した土師質土器三足盤の特徴として、両側面、前面、背面ともに非常に丁寧なナデ調整および何らかの工具を用いた面取りのようなナデ調

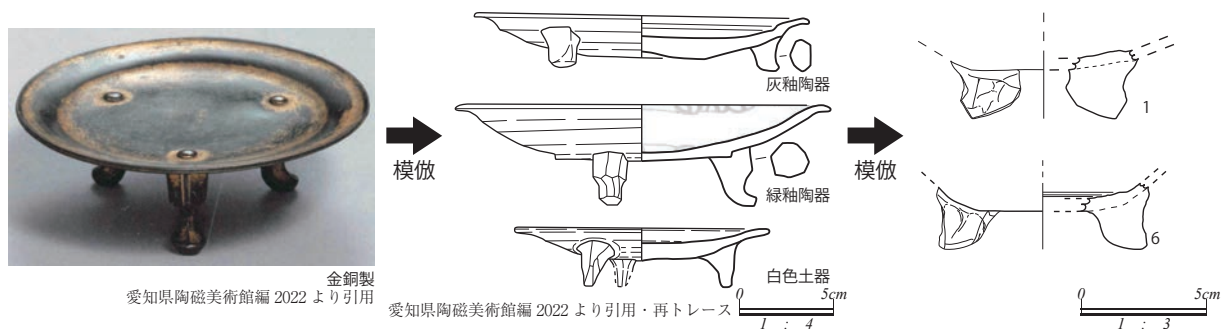


図 15 土師質土器三足盤の模倣対象

整が施されていることを指摘した。古代後半の今治平野の在地土器は、主に回転ナデ調整を用いた手法で製作されており、何らかの工具を用いたナデ調整は甕のような大型の器種しかみられず、しかもこのようなナデ調整を施す甕はあまり出土しない。そして、面取りのようなナデ調整を施す、皿、杯、椀のような小型器種はみられない。そのため、在地土器を製作する技術では、三足盤の脚部を丁寧につくることは困難であると想定され、何か模倣対象物を見ながら製作した可能性が考えられる。しかしながら、脚部をすべて面取りできていないこと、脚部の断面形が長形を呈する多角形であること、回転ナデ調整で整形し、切り離し時の回転ヘラ切り痕跡をナデ消していないことは、製作集団が模倣対象の器形をそっくりそのまま模倣することができていない点として現れている。

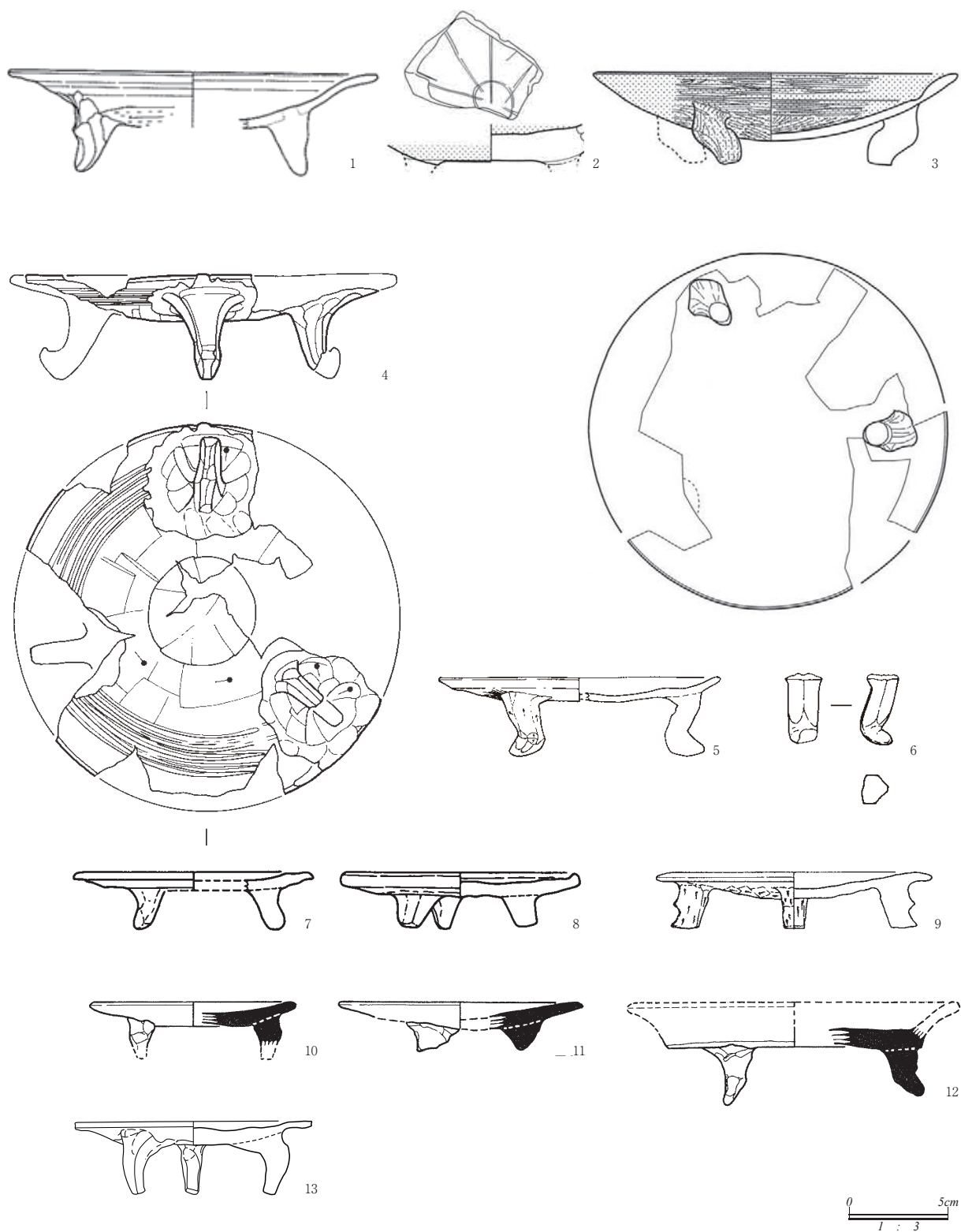
古代の模倣三足盤の類例

愛媛県内では、管見の限り古代の土師質土器三足盤の出土は確認できず、足付き土器そのものの出土例を認められない。12世紀～13世紀には八町1号遺跡2次(今治市)で三足付きの土器(図12-74、図26-397、図36-590)が出土しているが(中野編1995)、その形態は別名端谷Ⅰ遺跡2次調査で出土した例とは全く異なる。

全国的にみても、灰釉陶器や緑釉陶器、白色土器三足盤の出土事例自体少ないが、これらの器形を在地土器で模倣した例はさらに少ない(図16)³⁾。器形から、1、3、4は緑釉陶器か灰釉陶器三足盤を模倣しており、その他は白色土器三足盤を模倣していることが推測される。これらの三足盤は、ヘラ削りやナデ調整などによって脚が丁寧に成形され、脚の器形にはバリエーションがある。また、脚の断面形は基本的に正多角形に近い器形であり、それぞれの模倣対象に近似した形態を模倣している。これらの三足盤がみられる遺跡では、緑釉陶器や灰釉陶器、墨書土器などが多数認められ、帯金具や硯なども出土している特徴があり、官衙関連のなかでも中心的な官衙関連の性格が想定されている。

(4) 小結—別名端谷Ⅰ遺跡2次調査の土師質土器三足盤—

三足盤は非常に特殊な土器であり、全国的にみても官衙関連の中心的な遺跡で出土している性格がある。また、出土点数も非常に少ないことから、日常使いの器ではなく、何らかの儀礼や儀式のために使用されていたことが想定される。土器を模倣するには、模倣対象となるAに価値を見だし、それを真似ることでその価値を再現しようとし、非意図的な要素はなく、対象Aの価値が社会集団に共有されている必要がある(柴田2021)。本遺跡では、11世紀の事例にはなるが、SD57において、土師質土器足高高台椀と土師質土器杯・皿が多数廃棄された遺構が検出されている。この溝で出土したこれらの土器のなかには、底部穿孔された痕跡があるものや、一度土器を意図的に割ったのちにこの溝に廃棄されたものもみられ、この溝周辺で儀礼・儀式が行われたことが推測される。11世紀に行われていた儀式・儀礼は、施釉陶器が多数出土し、土師質土器三足盤が出土している時期である9世紀～10世紀まで遡る可能性がある。この儀式・儀礼がどういったものであったのか明らかにすることはできないが、本遺跡は官営工房の性格をもつ遺跡であることから、在庁官人や在地の官人層が関与していたと考えられる。



1. 山王遺跡(宮城県) 赤焼土器 2. 深堀遺跡(長野県) 土師器 3. 下曽根遺跡(長野県) 黒色土器 4. 西四ツ屋遺跡(長野県) 土師器 5,6. 史跡斎宮跡(三重県) 土師器 7,8. 長原・瓜破遺跡(大阪府) 土師器 9. 白水遺跡(兵庫県) 土師器 10~12. 玉津・田中遺跡(兵庫県) 土師器 13. 二本木遺跡(熊本県) 土師器

図 16 古代における緑釉陶器・灰釉陶器・白色土器模倣の三足盤の類例

4 おわりに

別名端谷Ⅰ遺跡の古代の評価をめぐる基礎的整理として、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査で出土した緑釉陶器と土師質三足盤を取り上げた。緑釉陶器では愛媛県内の保有状況を整理し、別名端谷Ⅰ遺跡で出土した緑釉陶器には、3点特徴がみられることを指摘した。土師質土器三足盤からは、本遺跡で儀式・儀礼が執り行われていた可能性について指摘した。別名端谷Ⅰ遺跡は、在庁官人あるいは在地の官人層が主導した官営の鍛冶工房跡であり、国衙もしくは郡衙に付随する鍛冶工房跡と考えられていることから、今後の整理作業では、本稿で取り上げた遺物と遺構との関係や、その他の出土遺物の検討を通し、古代の別名端谷Ⅰ遺跡の多様なあり方について明らかにしたい。

最後になりましたが、本稿を執筆するに当たり、高橋照彦先生には別名端谷Ⅰ遺跡2次調査で出土した緑釉陶器だけでなく、愛媛県内で出土した緑釉陶器の産地や年代などについて多大な御指導、御教示を賜りました。また、以下の方々や調査機関には資料調査の便宜の他、多くの御指導や御教示を賜りました。記して感謝を申し上げます。(敬称略)

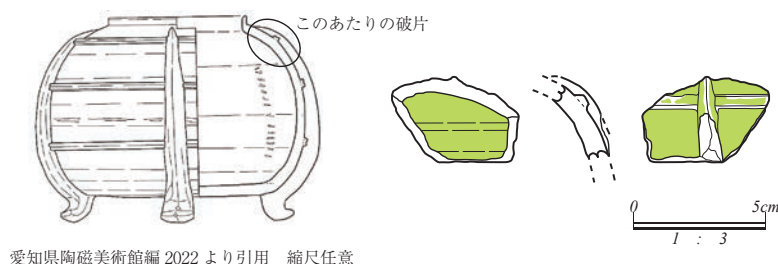
大塩啓一郎、岡島俊也、小野隼也、加治木智也、笹田朋孝、柴田圭子、菅波正人、首藤久士、富田尚夫、福本佳織、松葉竜司、村上恭通、持永壮志朗、三好裕之、山崎純男

今治市教育委員会、愛媛県教育委員会、愛媛県歴史文化博物館、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター、西条市教育委員会、松山市考古館

追記 資料紹介

今治市で資料調査を実施した際に、八町1号遺跡3次調査の未報告資料の中に緑釉陶器四足壺の破片を確認したため、紹介したい。

図17で図示しているのが八町1号遺跡3次調査のD-3 9層で出土した緑釉陶器四足壺の破片である。この破片は四足壺の体部(肩部)付近の破片である。外面には縦にのびる帯と横方向に巡る帯がみられる。胎土は精緻な白色胎土である。焼成は軟質であり、かつ良好である。内外面ともに淡黄緑色の釉が施釉されている。京都産と考えられ、9世紀頃とみられる。本稿でも示したように、これまで愛媛県では壺とみられる緑釉陶器は出土していたが、いずれも残存状況が良好でないため、壺のどのような器種か判断できない。そのため、四足壺としては、本稿で紹介した八町1号遺跡3次調査出土例が県内初事例である。



愛知県陶磁美術館編 2022 より引用 縮尺任意

図 17 八町 1 号遺跡 3 次調査未報告資料緑釉陶器四足壺 (右)

註

- *1 別名端谷Ⅰ遺跡2次調査の内容は未報告であり、今後報告書が刊行される予定である。また、本遺跡で出土した緑釉陶器は未整理段階の報告になるため、今後の整理作業で出土点数はさらに増える可能性がある
- *2 報告書が刊行されていない資料や、報告書に緑釉陶器が出土している記載がない遺跡の未報告資料すべてを実見できていないため、実際には本報告で確認した点数よりも出土している。なお、本稿の図18～24および表2～7において、報告書で掲載されている緑釉陶器および筆者が資料調査した際に実測した未報告資料の一部を図示しており、それらを一覧表としてまとめている。また、図18～24の掲載番号は、(本稿での掲載番号、報告書での掲載番号)を表す。
- 報告書では緑釉陶器と掲載されているが、実見したところ緑釉陶器ではない土器が数点あったので報告する。伊予国分尼寺遺跡18は灰釉陶器であった。八町1号遺跡3次調査337は青磁であり、433は灰釉陶器であった。姫原遺跡153は在地の11世紀～12世紀代の土師器であった。船ヶ谷遺跡4次の1683は10世紀～11世紀代の在地の土師器であった。八町遺跡12は中世以降の陶磁器であった。
- *3 全国遺跡報告総覧で「三足盤」と検索して、管見の限り52遺跡で出土していることを確認した。全国遺跡報告総覧に掲載されていない報告書もあるため、実際には古代の三足盤が出土している遺跡は増加すると思われる。これらの遺跡では、灰釉陶器三足盤の報告例が多数を占めていた。

参考文献

- 愛知県陶磁美術館編1998『日本の三彩と緑釉』愛知県陶磁美術館
- 愛知県陶磁美術館編2022『平安のやきもの—その姿、うつろいゆく』愛知県陶磁美術館
- 青木聡志2021「愛媛県における古代～中世の土器編年—今治平野の9世紀から12世紀を中心に—」『紀要愛媛』第17号 公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター pp.14-16
- 池尻伸吾2018「第4節 まとめ」『旗屋遺跡Ⅱ 上三谷篠田・鶴吉遺跡 JR予讃線他埋蔵文化財調査報告書』埋蔵文化財発掘調査報告書 第194集 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター pp.46-56
- 伊藤正人2023「箸台ノート」『物質文化』103 物質文化研究会 pp.21-47
- 小黒裕二・橋本貴登2000「第10章考察」『阿方春岡遺跡 阿方牛ノ江遺跡 矢田八反坪遺跡 矢田大出口遺跡 矢田平山近世墓 矢田平山古墳 矢田平山遺跡 一般国道196 号今治北道路埋蔵文化財調査報告書』埋蔵文化財発掘調査報告書 第88集 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター pp.319-328
- 尾野善裕2003「古代の尾張・美濃における緑釉陶器生産」『古代の土器研究 平安時代の緑釉陶器—生産地の様相を中心に—』古代の土器研究会 pp.20-37
- 熊本県教育委員会2010『二本木遺跡群Ⅲ』
- 神戸市教育委員会1999『白水遺跡 第4次』
- 神戸市教育委員会2000『玉津田中遺跡発掘調査報告書 第8・10・12・13・15次調査』
- 斎宮歴史博物館2010『史跡斎宮跡 平成20年度発掘調査概報』
- 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2007『別名端谷Ⅰ遺跡・別名端谷Ⅱ遺跡・別名成ルノ谷遺跡・別名寺谷Ⅰ遺跡・別名寺谷Ⅱ遺跡—今治新都市開発に伴う埋蔵文化財調査報告書第4集—』
- 財団法人大阪市文化財協会1993『長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅴ』
- 佐久市教育委員会2001『上芝宮Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ、下曾根Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ』
- 佐久市教育委員会2002『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』
- 柴田亮2021「九州北部の輸入陶磁器模倣瓦器碗～肥前西部地域を中心として～」『第39回中世土器研究会 輸入

- 陶磁器と国産土器・陶磁器-類似と模倣-』日本中世土器研究会 pp.13-24
- 高橋照彦1994「近江産緑釉陶器をめぐる諸問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集 国立歴史民俗博物館 pp.313-348
- 高橋照彦1995a「緑釉陶器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 pp.257-278
- 高橋照彦1995b「平安期緑釉陶器の生産の展開と変質」『国立歴史民俗博物館研究報告』第60集 国立歴史民俗博物館 pp.137-166
- 高橋照彦2003「平安京近郊の緑釉陶器生産」『古代の土器研究 平安時代の緑釉陶器—生産地の様相を中心に—』古代の土器研究会 pp.5-19
- 高橋照彦2015「都と地方の土器」『官衙・集落と土器1—宮都・官衙と土器—』クバプロ pp.11-26
- 長野県埋蔵文化財センター2009『西四ツ屋遺跡 表町遺跡』
- 中野良一編1995『八町1号遺跡—2次調査区—』 今治市教育委員会
- 畑中英二2003「近江における緑釉陶器生産の様相」『古代の土器研究 平安時代の緑釉陶器—生産地の様相を中心に—』 古代の土器研究会 pp.64-72
- 宮城県教育委員会1996『山王遺跡Ⅲ』
- 宮内慎一1998「IX 古代の土器」『岩崎遺跡』松山市文化財調査報告書 第71集 松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター pp.510-515

報告書

- 1.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2011『上分西遺跡・上分西遺跡乗安地区』
- 2.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2010『本郷遺跡』
- 3.財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2011『本郷遺跡3次・滝の宮遺跡』
- 4.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2009『池の内遺跡2次調査』
- 5.西条市教育委員会1993『天神山遺跡』
- 6.西条市教育委員会2022『道場遺跡 松ノ丁遺跡』
- 7.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2002『幸の木遺跡』
- 8.東予市教育委員会1999『新池遺跡・小池遺跡』
- 9.上島町教育委員会2016『宮ノ浦遺跡Ⅱ』
- 10.上島町教育委員会2018『宮ノ浦遺跡Ⅲ』
- 11.上島町教育委員会2019『宮ノ浦遺跡Ⅳ』
- 12.上島町教育委員会2022『宮ノ浦遺跡Ⅵ』
- 13.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2000『旦遺跡 宮之前遺跡 長沢石打遺跡 長沢1号墳 長沢6号 墳 二の谷2号墳 鉢又古墳群 郷桜井西塚古墳』
- 14.公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2016『今若遺跡2』
- 15.公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2014『経田遺跡』
- 16.公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2020『朝倉下経田遺跡』
- 17.今治市教育委員会1999『伊予国分尼寺遺跡』
- 18.今治市教育委員会1994『郷桜井八反地遺跡』
- 19.財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2009『国分壺町地遺跡 国分向遺跡1次・2次』
- 20.今治市教育委員会『伊予国分寺跡確認調査』

- 21.今治市教育委員会1997『市内遺跡試掘確認調査報告書Ⅳ』
- 22.財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2012『国分才寄遺跡』
- 23.今治市教育委員会1997『四村額ヶ内遺跡』
- 24.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1998『四村日本遺跡』
- 25.今治市教育委員会1996『中寺馬之熊遺跡』
- 26.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1989『一般国道196号今治道路埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』
- 27.今治市教育委員会1995『八町1号遺跡—2次調査区—』
- 28.今治市教育委員会1998『八町1号遺跡—第3次調査—』
- 29.今治市教育委員会1998『八町1号遺跡—第4次調査—』
- 30.今治市教育委員会1999『高橋湯ノ窪遺跡Ⅱ』
- 31.今治市教育委員会1998『市内遺跡試掘確認調査報告書Ⅵ』
- 32.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2007『別名端谷Ⅰ遺跡・別名端谷Ⅱ遺跡・別名成ルノ谷遺跡・別名寺谷Ⅰ遺跡・別名寺谷Ⅱ遺跡』
- 33.今治市教育委員会2015『別名寺谷遺跡』
- 34.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2004『矢田八反坪遺跡3次』
- 35.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2000『阿方遺跡・矢田八反坪遺跡』
- 36.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2000『阿方春岡遺跡・阿方牛ノ江遺跡・矢田八反坪遺跡・矢田大出口遺跡・矢田平山近世墓・矢田平山古墳・矢田平山遺跡』
- 37.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2006『高地スゴ谷Ⅰ遺跡・高地栗谷4号墳・阿方牛ノ江Ⅰ遺跡・阿方牛ノ江Ⅱ遺跡・阿方牛ノ江Ⅲ遺跡・阿方牛ノ江Ⅳ遺跡』
- 38.今治市教育委員会1999『石井国友遺跡』
- 39.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1996『糸大谷遺跡』
- 40.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1998『火内遺跡・臥間遺跡』
- 41.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1984『赤岸鼻遺跡』
- 42.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2008『猿川西ノ森遺跡』
- 43.中島町教育委員会2002『愛媛県中島町宮浦遺跡発掘調査報告書』
- 44.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2000『道ヶ谷古墳 池の奥遺跡 平田七反地遺跡』
- 45.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2000『大淵遺跡—3次調査地—』
- 46.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2002『船ヶ谷遺跡—4次調査—』
- 47.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1993『和気・堀江の遺跡一座拝坂・金比羅山・船ヶ谷三ツ石古墳—』
- 48.公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター2014『松山市内遺跡詳細分布調査』
- 49.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2005『大畑遺跡』
- 50.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2002『土居窪遺跡2次 祝谷畑中遺跡 祝谷本村遺跡2次』
- 51.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2008『道後湯月町遺跡・道後湯ノ町遺跡』
- 52.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1994『道後城北遺跡群Ⅱ—道後今市9次・道後鷺谷・祝谷大地ヶ田—』
- 53.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2002『道後町遺跡-都市計画道路東一万道後(道後工区)線整備に伴う埋

蔵文化財調査報告書』

- 54.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2005『道後町遺跡Ⅱ』
- 55.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1998『岩崎遺跡』
- 56.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2012『石手村前遺跡2次・3次』
- 57.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2006『番町遺跡』
- 58.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2009『此花町遺跡』
- 59.松山市教育委員会・財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター2011『樽味立添遺跡4次調査・樽味高木遺跡15次調査』
- 60.財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1992『桑原地区の遺跡—樽味立添・樽味高木・樽味四反地・桑原西稲葉1・2次・桑原田中・経石山古墳・枝松3次—』
- 61.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2002『樽味四反地遺跡—5次調査—』
- 62.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2005『樽味四反地遺跡Ⅱ—6次調査—』
- 63.公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター2013『樽味高木遺跡10次調査・樽味四反地遺跡10次調査』
- 64.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2009『樽味四反地遺跡—12次・13次調査』
- 65.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2010『樽味四反地遺跡15次調査・樽味高木遺跡14次調査』
- 66.松山市教育委員会・財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター2011『樽味四反地遺跡—19次・20次調査』
- 67.公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター2016『桑原地区の遺跡Ⅴ—桑原6次・桑原東稲葉1次・桑原東稲葉2次・樽味高木16次・樽味高木17次・三町—』
- 68.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2009『蘇我小学校校内遺跡・拓南中学校校内遺跡・中村長正寺遺跡・小坂七ノ坪遺跡』
- 69.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2005『東本遺跡6次調査地・桑原遺跡2次調査地・桑原遺跡4次調査地』
- 70.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2006『大峰ヶ台遺跡Ⅲ—3次調査地・南江戸客谷—』
- 71.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1994『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ—大峰ヶ台地区 南江戸桑田遺跡 辻遺跡 大峰ヶ台Ⅱ遺跡—』
- 72.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2004『南斎院土居北遺跡・南江戸蘭目遺跡(2次調査)』
- 73.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1993『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』
- 74.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1996『古照遺跡—第8・9次調査—』
- 75.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2001『斎院の遺跡Ⅱ—鳥越・津田中学校校内・北斎院地内—』
- 76.財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター2022『東垣生八反地遺跡-6次調査』
- 77.公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2021『余戸弘川遺跡1・2次 余戸中の孝遺跡7次 余戸柳井田遺跡4・

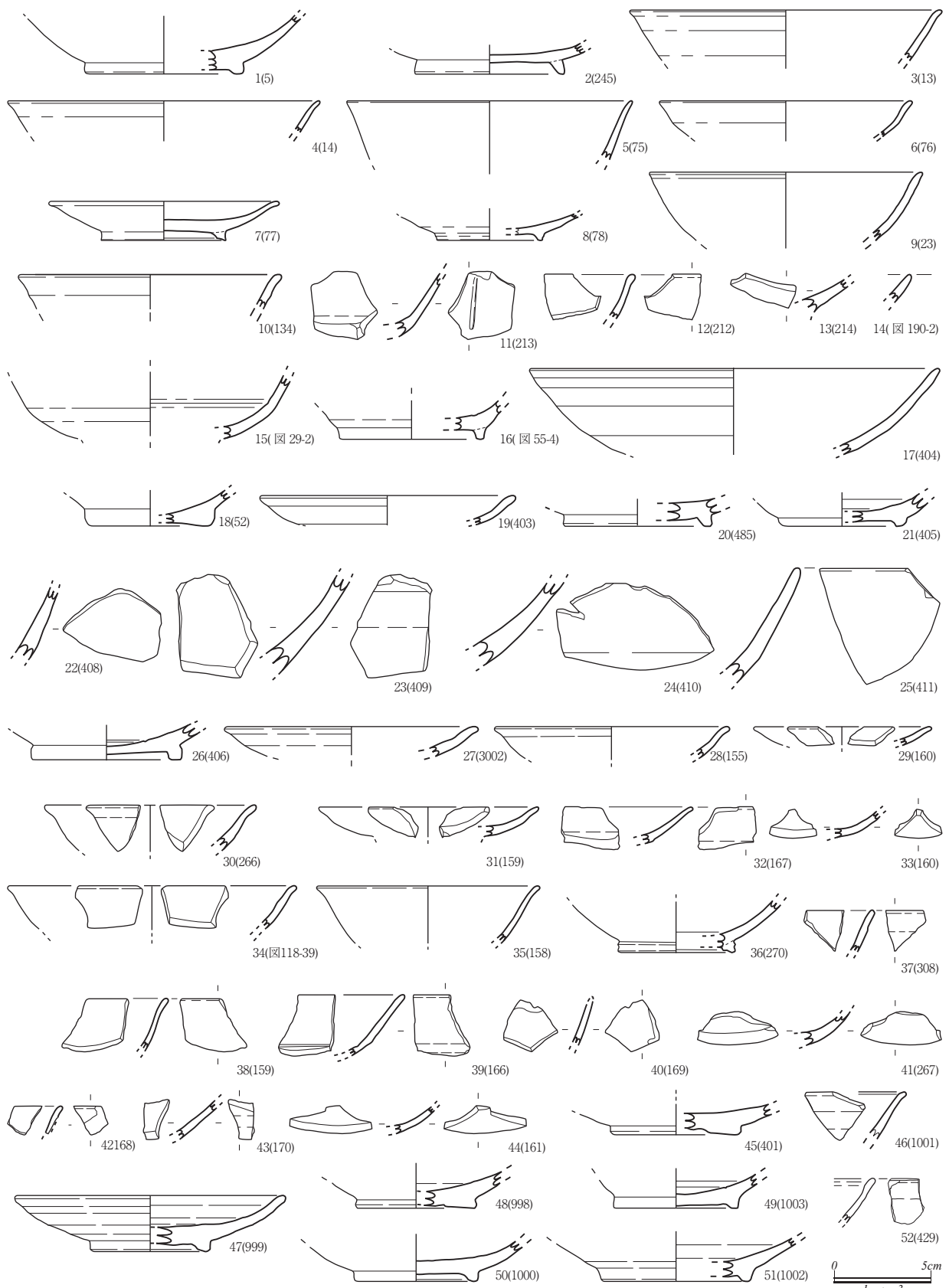
- 5次 余戸柳井田遺跡7次東垣生八反地遺跡2次 南吉田南代遺跡2次』
- 78.公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター2013『古川遺跡』
- 79.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2005『東石井遺跡・西石井遺跡』
- 80.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター栗田茂敏編1994『石井幼稚園遺跡・南中学校構内遺跡―第2次調査―』
- 81.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2013『北井門遺跡3次調査』
- 82.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1996『福音寺地区の遺跡―筋違C・D・E・F・I・川附―』
- 83.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1999『乃万の裏遺跡―2次調査地―』
- 84.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2005『来住・久米地区の遺跡VI―久米才歩行遺跡2次・久米才歩行遺跡4次・久米才歩行遺跡5次―』
- 85.愛媛県教育委員会文化課、財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1981『一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』
- 86.松山市教育委員会・公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター2013『来住町遺跡8次調査・来住町遺跡12次調査・久米窪田森元遺跡4次調査』
- 87.松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター2000『古市遺跡・下苅屋遺跡2・3次』
- 88.財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター1996『一般国道11号重信道路埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 89.公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター2018『旗屋遺跡II 上三谷篠田・鶴吉遺跡』
- 90.西予市教育委員会2009『西ノ前遺跡・福吉窯跡発掘調査報告書』

図版出典

図1、4～9、11、14. 筆者作成 図2、3. 現在整理中の別名端谷Ⅰ遺跡2次調査出土資料を筆者実測・撮影 図10. 高橋2015表1～3を一部改変 図12、13. 現在整理中の別名端谷Ⅰ遺跡2次調査出土資料を筆者実測 図15. 愛知県陶磁美術館編2022p41、p95、p111を一部改変して使用・作成 図16. 1：宮城県教育委員会1996図50、2：佐久市教育委員会2002図132、3：佐久市教育委員会2001図42、4：長野県埋蔵文化財センター2009第14図、5・6：斎宮歴史博物館2010第Ⅲ-7図、7・8：財団法人大阪市文化財協会1993図164、9：神戸市教育委員会1999図33、10～12：神戸市教育委員会2000fig22、13：熊本県教育委員会2010第171図 図17. 愛知県陶磁美術館編2022p99を一部改変して使用、未報告資料は筆者実測 図18～24. 報告書から使用、一部を再トレース・改変、図18-11～16、27、図19-96、図21-201、205、208、211、212、215、図23-341、342、358～360、366～368、図24-383、416は筆者実測

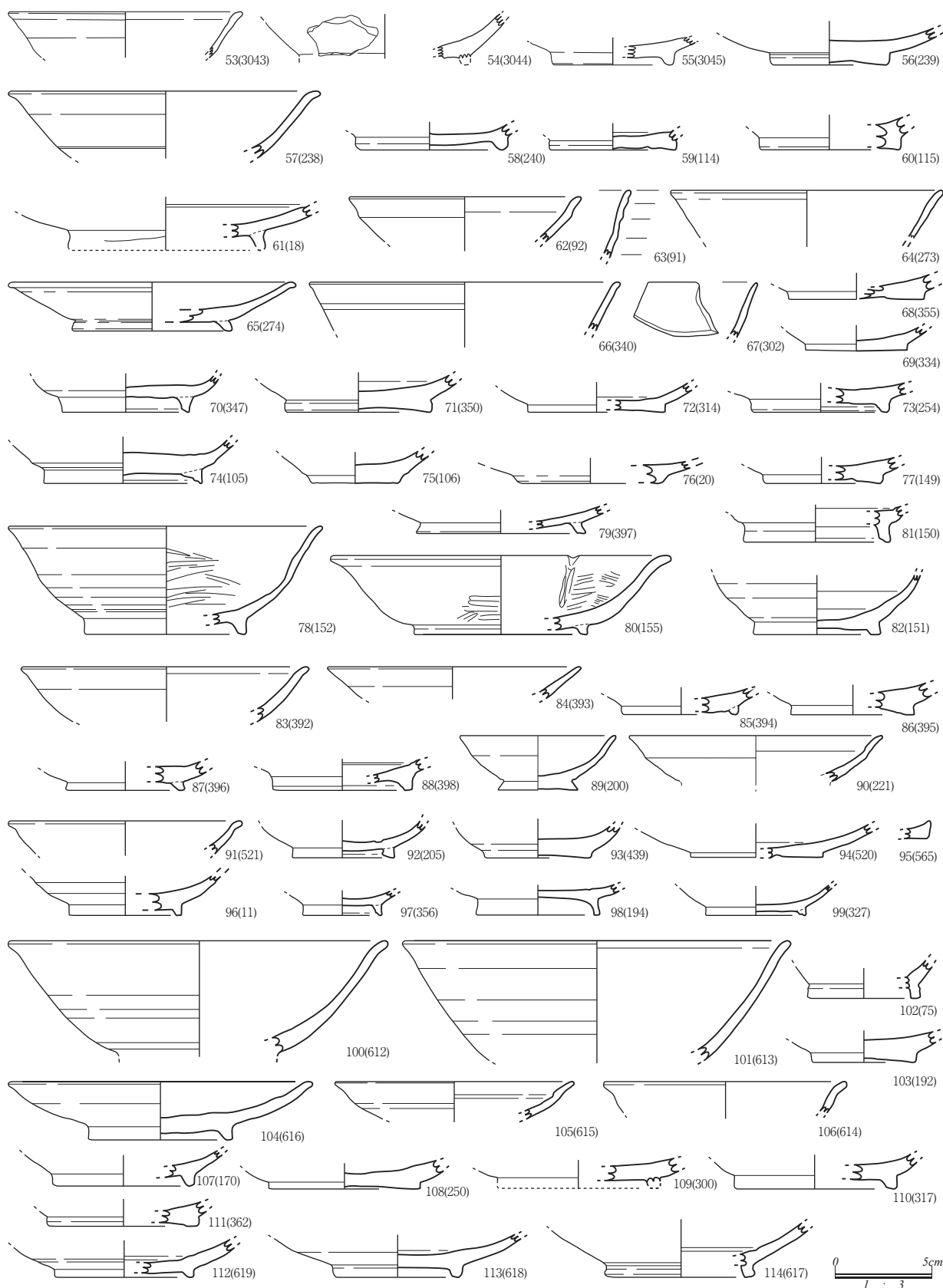
表1～7. 筆者作成

(2024年2月27日)



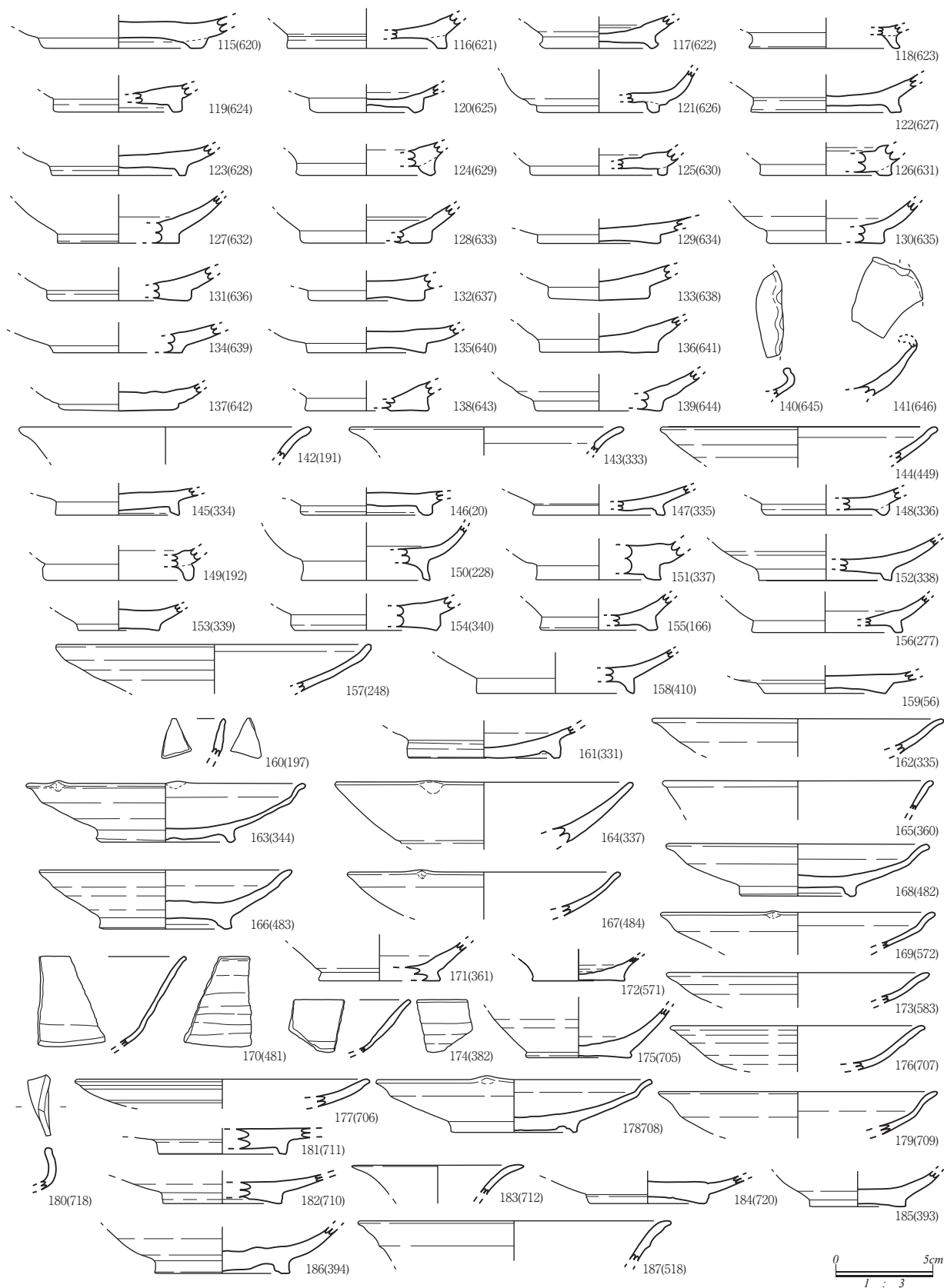
1 上分西遺跡 2 上分西遺跡乗安地区 3～8 本郷遺跡 9 本郷遺跡3次 10 池の内遺跡2次 11～13 天神山遺跡 14～16 道場遺跡 17～26 幸の木遺跡 27 新池遺跡 28～44 宮ノ浦遺跡 45 宮之前遺跡 46～51 今若遺跡2 52 経田遺跡

図18 愛媛県緑釉陶器一覧その1



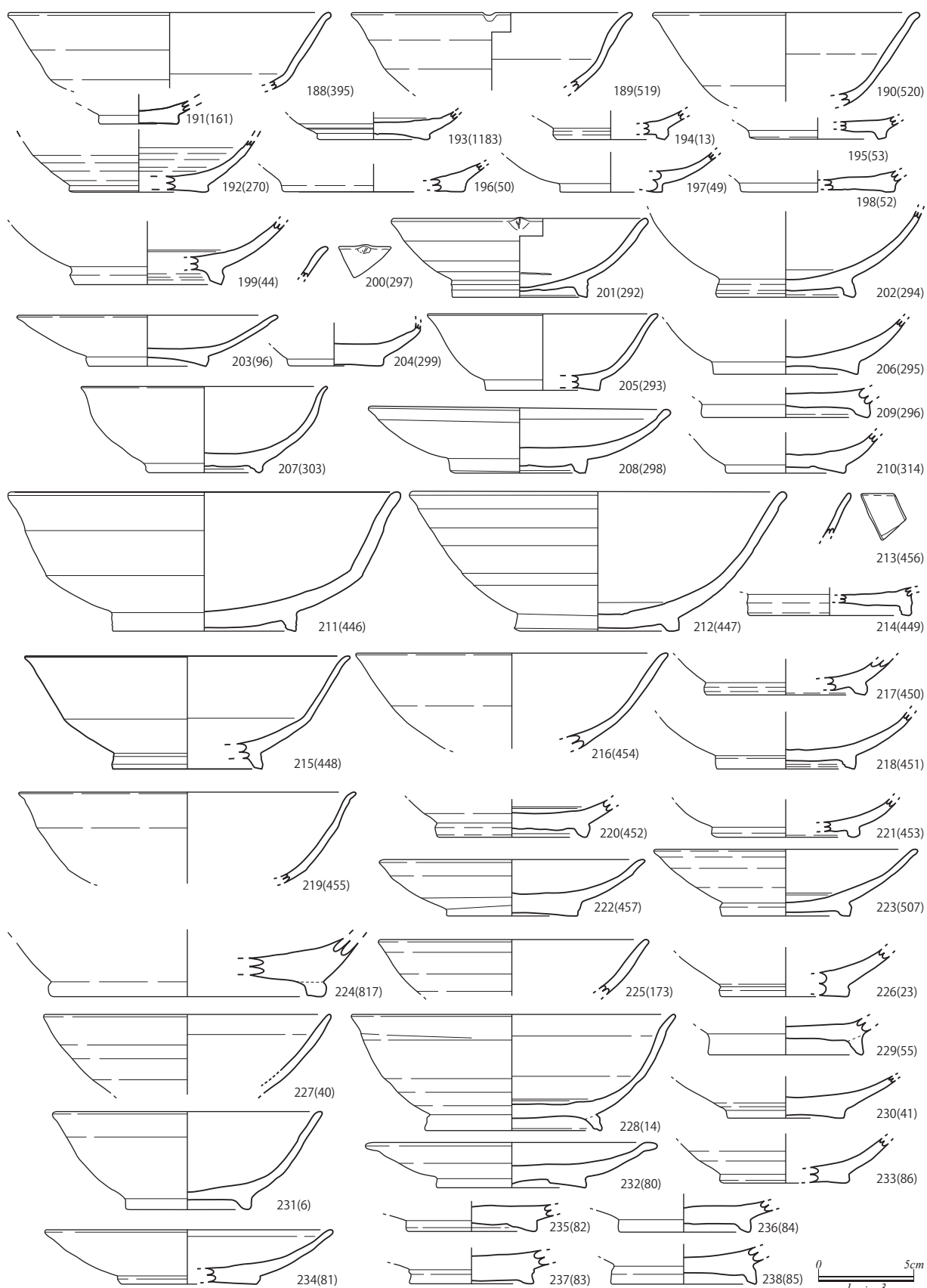
53～55 朝倉下下経田遺跡 56～61 伊予国分尼寺遺跡 62、63 郷桜井八反地遺跡 64、65 国分向遺跡 66～73 伊予国分寺跡 4 次 74、75 桜井 11 地点 76 国分才寄遺跡 77～88 四村額ヶ内遺跡 89、90 四村日本遺跡 91～95 中寺馬之照遺跡 96～99 八町遺跡 100～114 八町 1 号遺跡 2 次

図 19 愛媛県緑釉陶器一覧その 2



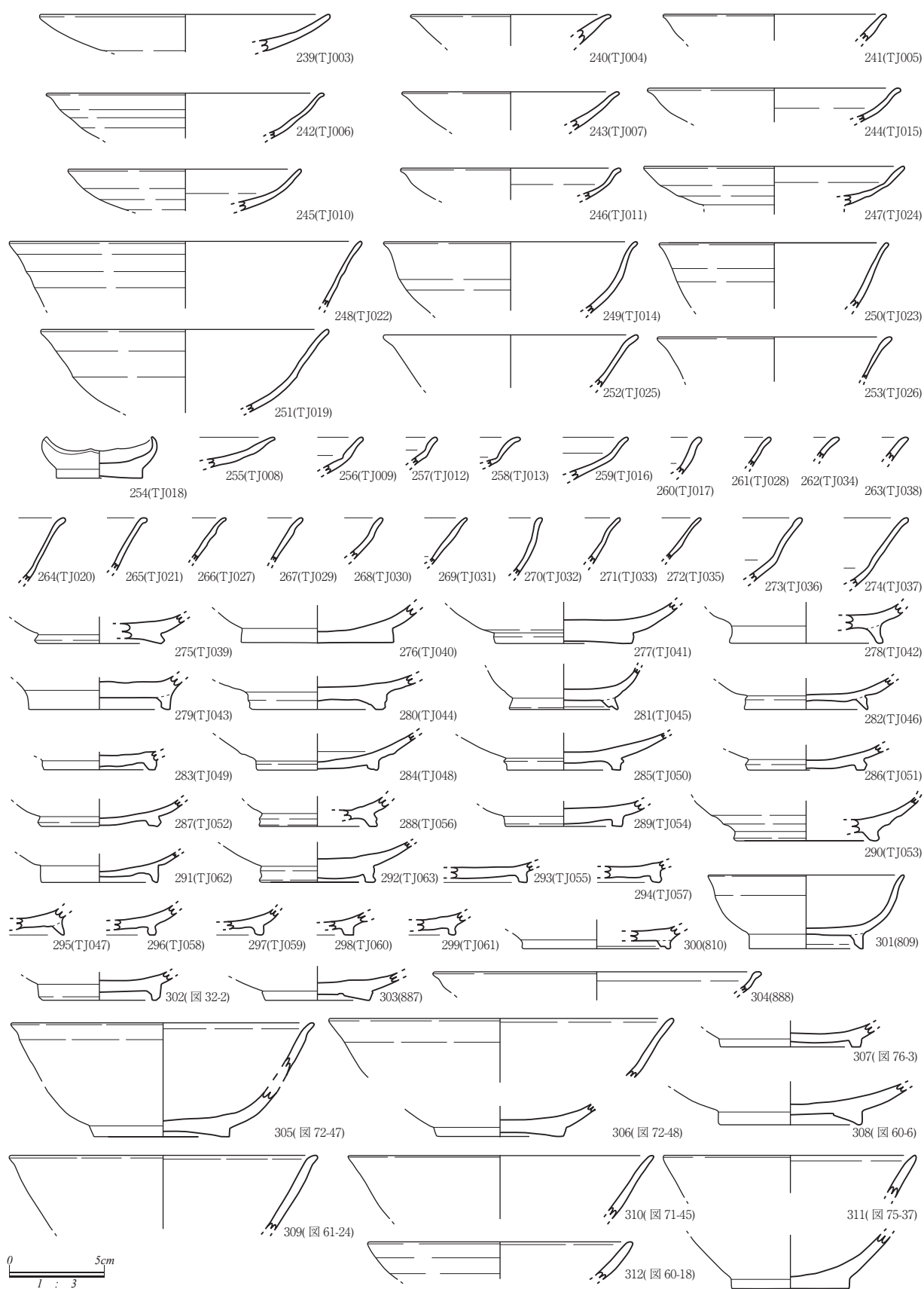
115～1451 八町 1 号遺跡 2 次 142～154 八町 1 号遺跡 3 次 155～157 八町 1 号遺跡 4 次 158 高橋湯ノ窪遺跡Ⅱ 159 日高 19 地点 160 別名成ルノ谷遺跡 161～184 別名寺谷Ⅰ遺跡 185～187 別名寺谷遺跡

図 20 愛媛県緑釉陶器一覧その 3



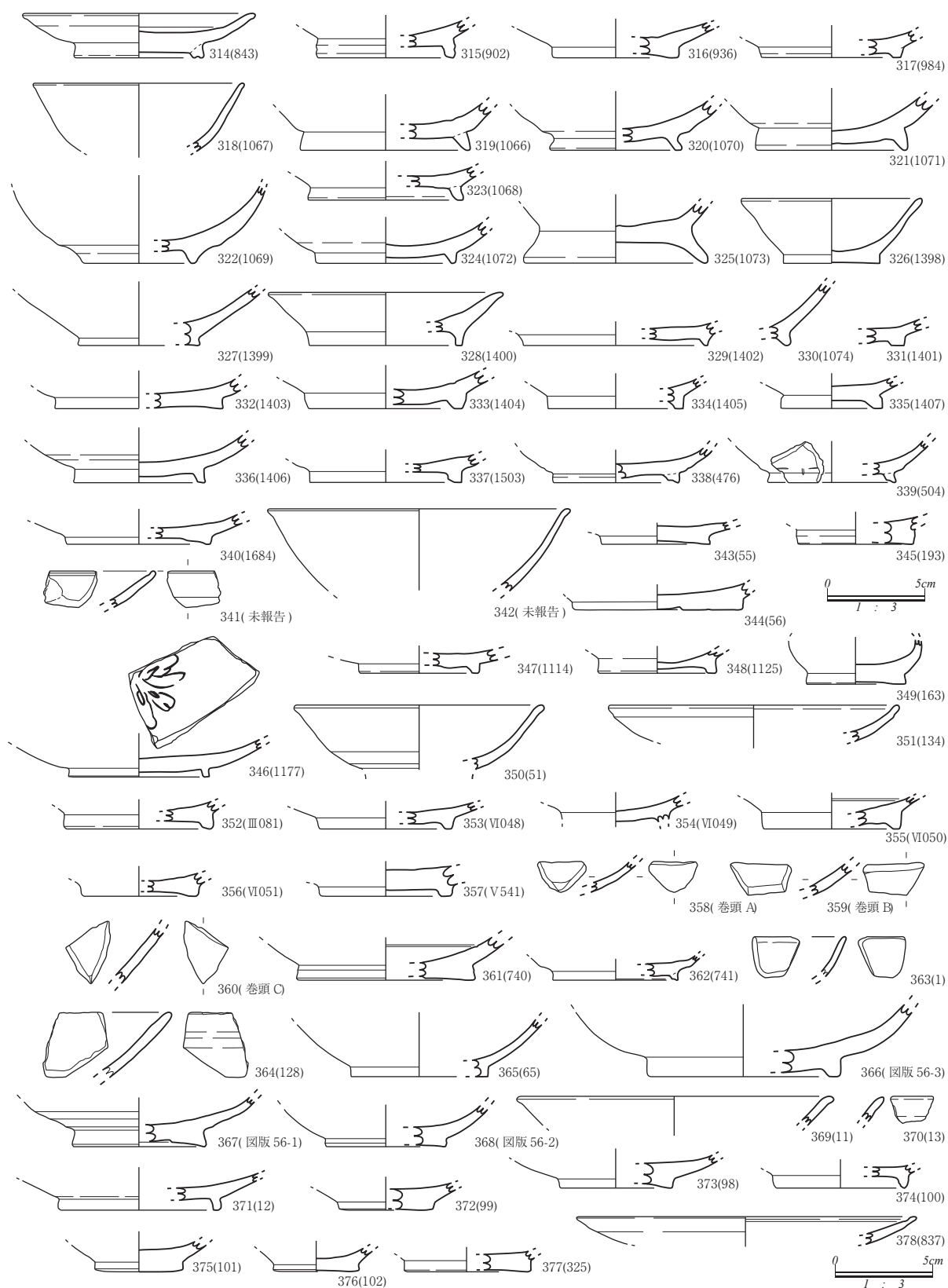
188～190 別名寺谷遺跡 191 別名端谷Ⅰ遺跡 192 矢田八反坪遺跡 3次 193 阿方遺跡 194～223 阿方春岡遺跡 224 阿方牛ノ江Ⅱ遺跡 225～238 石井国友遺跡

図 21 愛媛県緑釉陶器一覧その 4



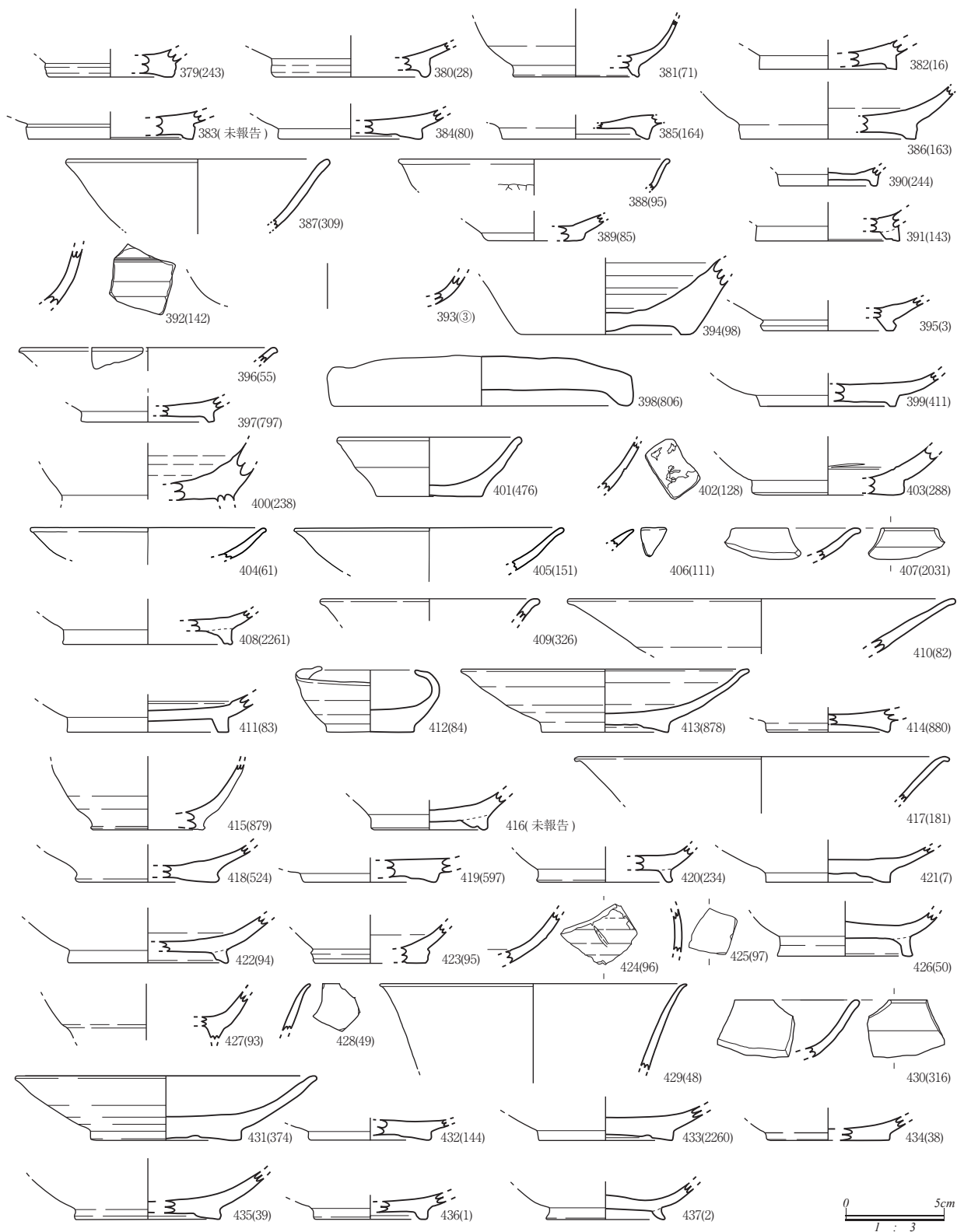
239～299 糸大谷遺跡 300、301 臥間遺跡 302 赤岸鼻遺跡 303、304 猿川西ノ森遺跡 305～313 宮浦遺跡

図 22 愛媛県緑釉陶器一覧その 5



314～337 平田七反地遺跡 338、339 大淵遺跡3次 340 船ヶ谷遺跡4次 341、342 座拝坂遺跡 343、344 吉藤公園 345 大畑遺跡 346 祝谷本村遺跡 347、348 祝谷畑中遺跡 349 道後湯月町遺跡 350 道後今市遺跡9次 351 道後町遺跡 352～360 岩崎遺跡 361、362 番町遺跡 363、364 此花町遺跡 365 樽味縦添遺跡4次 366～368 樽味四反地遺跡 369～378 樽味四反地遺跡5次

図 23 愛媛県緑釉陶器一覧その6



379 樽味四反地遺跡 6 次 380 樽味四反地遺跡 10 次 381 樽味四反地遺跡 12 次 382~384 樽味四反地遺跡 15 次 385、386 樽味四反地遺跡 19 次 387 樽味四反地遺跡 20 次 388、389 桑原東稲葉遺跡 2 次 390 素鷲小学校校内遺跡 391、392 東本遺跡 6 次 393 大峰ヶ台遺跡 394、395 南江戸桑田遺跡 396 南江戸客谷遺跡 397 南江戸目遺跡 2 次 398 松環古照遺跡 399 古照遺跡 8 次 400 南斎院土居北遺跡 2 次 401 鳥越遺跡 402、403 東垣生八反地遺跡 6 次 404~406 古川遺跡 1 次 407、408 西石井遺跡 409 東石井遺跡 410~412 石井幼稚園遺跡 413~415 北井門遺跡 3 次 416、417 川附遺跡 418、419 乃万の裏遺跡 2 次 420 久米才歩行遺跡 4 次 421 前川 I 遺跡 422~425 久米窪田森元遺跡 3 次 426~429 久米窪田森元遺跡 4 次 430 古市遺跡 1 次 431、432 竹ノ鼻遺跡 433 上三谷篠田・鶴吉遺跡 434、435 旗屋遺跡 II 436、437 西ノ前遺跡

図 24 愛媛県緑釉陶器一覧その 7

表2 緑釉陶器出土一覧その1

遺跡番号	遺跡名	出土場所	図版掲載番号	報告書掲載番号	器種	高台	産地	時期	備考	報告書番号
1	上分西遺跡	1区包含層	1	5	椀	削り出し輪高台	京都	10C前半		1
2	上分西遺跡兼安地区	2a区SR01	2	245	椀	貼り付け輪高台	近江	10C後半		1
3	本郷遺跡	SK1	3	13	椀		京都	9C後半		2
	本郷遺跡	SK1	4	14	椀		京都	10C前半		
	本郷遺跡	包含層	5	75	椀		京都	9C後半～10C前半		
	本郷遺跡	包含層	6	76	椀		京都	10C前半		
	本郷遺跡	包含層	7	77	皿	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	本郷遺跡	包含層	8	78	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	本郷遺跡	包含層		未報告				1点		
4	本郷遺跡3次	II層	9	23	椀		京都	9C後半		3
	池の内遺跡2次	SP532	10	134	椀		京都	9C後半～10C前半		4
5	天神山遺跡	包含層	11	213	椀		近江	10C後半	輪花椀	5
	天神山遺跡	包含層	12	212	椀		京都	10C前半		
	天神山遺跡	包含層	13	214	皿		京都	9C後半～10C前半		
6	道場遺跡	Ⅶ区カクラン	14	図190-2	椀		京都	9C後半～10C前半		6
	道場遺跡	Ⅱ区②層	15	図29-2	稜		京都	10C前半		
	道場遺跡	Ⅲ区③層2	16	図55-4	椀	貼り付け輪高台	近江	10C後半		
7	幸の木遺跡	1区自然流路	17	404	椀		京都	9C後半～10C前半		7
	幸の木遺跡	1区自然流路	18	52	椀	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	幸の木遺跡	1区自然流路	19	403	皿		京都	9C後半～10C前半		
	幸の木遺跡	包含層	20	485	椀	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	幸の木遺跡	1区自然流路	21	405	椀	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	幸の木遺跡	1区自然流路	22	408	椀		京都	9C後半～10C前半		
	幸の木遺跡	1区自然流路	23	409	椀		京都	9C後半～10C前半		
	幸の木遺跡	1区自然流路	24	410	椀		京都	10C前半		
8	幸の木遺跡	1区自然流路	25	411	椀		京都	9C後半～10C前半		8
	幸の木遺跡	1区自然流路	26	406	椀	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	新池遺跡	Ⅲ区2-3層	27	3002	皿		京都	10C前半		
	宮ノ浦遺跡	I区27トレンチ	28	155	皿		近江	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	I区N15グリッド	29	160	皿		近江	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	II区7トレンチ	30	266	椀		近江	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	I区N15グリッド	31	159	皿		近江	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	II区17トレンチ	32	167	皿		近江	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	I区N15グリッド	33	160	皿		近江	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	I区15トレンチ	34	図118-39	椀		京都	9C前半		
	宮ノ浦遺跡	I区N15グリッド	35	158	小椀		防長	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	I区31トレンチ	36	270	椀	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	II区18トレンチ	37	308	椀		京都	10C前半		
	宮ノ浦遺跡	I区N15グリッド	38	159	椀		京都	10C前半		
	宮ノ浦遺跡	II区17トレンチ	39	166	椀		京都	10C前半		
	宮ノ浦遺跡	II区17トレンチ	40	169	椀		京都	10C前半		
	宮ノ浦遺跡	II区7トレンチ	41	267	椀		近江	10C後半		
9	宮ノ浦遺跡	II区17トレンチ	42	168	椀		京都	9C後半		9～12
	宮ノ浦遺跡	II区17トレンチ	43	170	皿		京都	10C前半		
	宮ノ浦遺跡	I区N15グリッド	44	161	皿		近江	10C後半		
	宮ノ浦遺跡	包含層	45	401	椀	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	今若遺跡2	包含層(IV層)	46	1001	椀		京都	9C後半～10C前半		
	今若遺跡2	包含層(IV層)	47	999	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	今若遺跡2	包含層(IV層)	48	998	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	今若遺跡2	包含層(IV層)	49	1003	椀	削り出し輪高台	京都	10C前半	緑釉陶器素地か？	
	今若遺跡2	包含層(IV層)	50	1000	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	今若遺跡2	包含層(IV層)	51	1002	椀	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	今若遺跡2	包含層(IV層)		未報告				5点		
	経田遺跡	ASK1 SE04	52	429	椀		京都	9C後半		
12	朝倉下下経田遺跡	ASSK2d区 包含層	53	3043	椀		京都	10C前半		15
	朝倉下下経田遺跡	ASSK2d区 包含層	54	3044	椀		近江	10C後半		
	朝倉下下経田遺跡	ASSK2d区 包含層	55	3045	椀	削り出し輪高台	京都	10C前半		
13	伊予国分尼寺遺跡	VI層	56	239	椀	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		16
	伊予国分尼寺遺跡	VI層	57	238	椀		京都	9C後半		
	伊予国分尼寺遺跡	VI層	58	240	椀か皿	削り出し輪高台？	京都	10C前半		
	伊予国分尼寺遺跡	V層	59	114	椀か皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	伊予国分尼寺遺跡	V層	60	115	椀か皿	円盤高台	京都	9C後半		
	伊予国分尼寺遺跡	IV層	61	18	皿	不明	不明	10C		
14	郷校井八反地遺跡	包含層	62	92	皿		不明	不明		17
	郷校井八反地遺跡	包含層	63	91	椀		京都	10C前半		
	郷校井八反地遺跡	包含層	64	273	椀		京都	10C前半		
15	国分向遺跡	IV層	65	274	皿	貼り付け輪高台	東海	9C後半		18
	国分向遺跡	IV層		未報告						
	国分向遺跡	SR1		未報告				1点		
	国分向遺跡	IV層		未報告				1点		
	国分向遺跡	SP5		未報告				1点		
16	国分向遺跡	層位不明		未報告				2点		19
	伊予国分寺跡4次	SK29	66	340	椀		京都	9C後半		
	伊予国分寺跡4次	12層	67	302	椀		京都	9C後半～10C前半		
	伊予国分寺跡4次	8層	68	355	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C前半		
	伊予国分寺跡4次	SK21	69	334	椀	削り出し円盤高台	京都	9C前半		
	伊予国分寺跡4次	6層	70	347	椀	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	伊予国分寺跡4次	7層	71	350	皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
17	伊予国分寺跡4次	13層	72	314	椀	削り出し円盤高台	京都	9C後半		20
	伊予国分寺跡4次	11層	73	254	椀	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	板井11地点		74	105	椀	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	板井11地点		75	106	耳皿	円盤高台	京都	9C後半～10C前半		
	板井11地点		76	20	椀	円盤高台	京都	9C前半		
18	国分才寄遺跡	包含層(II層)	77	149	椀	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		21
19	四村額ヶ内遺跡	SD-01	78	152	椀	削り出し輪高台	京都	9C後半		22
20	四村額ヶ内遺跡	SD-01			椀	削り出し輪高台	京都	10C前半		23

表3 緑釉陶器出土一覧その2

遺跡番号	遺跡名	出土場所	図版掲載番号	報告書掲載番号	器種	高台	産地	時期	備考	報告書番号
20	四村額ヶ内遺跡	包含層	79	397	碗	貼り付け輪高台	近江	10C後半		23
	四村額ヶ内遺跡	SD-01	80	155	碗	不明	不明		輪花皿か？	
	四村額ヶ内遺跡	SD-01	81	150	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	四村額ヶ内遺跡	SD-01	82	151	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	四村額ヶ内遺跡	包含層	83	392	碗		京都	9C前半		
	四村額ヶ内遺跡	包含層	84	393	皿		京都	9C後半		
	四村額ヶ内遺跡	包含層	85	394	碗	削り出し輪高台	京都	9C前半		
	四村額ヶ内遺跡	包含層	86	395	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	四村額ヶ内遺跡	包含層	87	396	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	四村額ヶ内遺跡	包含層	88	398	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
21	四村日本遺跡	II-SP01	89	200	小碗	円盤高台	京都	9C後半～10C前半	4点	24
	四村日本遺跡	II-SP16	90	221	皿		京都	10C前半		
	四村日本遺跡	II-SP08		未報告					1点	
22	中寺馬之原遺跡	包含層	91	521	皿		近江	10C後半		25
	中寺馬之原遺跡	SD-04	92	205	碗	貼り付け輪高台	東海	9C後半	内面にトチン痕あり	
	中寺馬之原遺跡	柱穴出土	93	409	皿	円盤高台	京都	9C後半		
	中寺馬之原遺跡	包含層	94	520	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C前半		
	中寺馬之原遺跡	トレンチ	95	565	壺		京都	9C		
23	八町遺跡	グリッド出土	96	44	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		26
	八町遺跡	7調査区1号井戸	97	356	碗か皿	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	八町遺跡	336号柱穴	98	194	皿	削り出し高台	京都	10C前半		
	八町遺跡	6調査区各グリッド	99	327	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	八町遺跡			未報告					48点	
24	八町1号遺跡2次	包含層	100	612	碗		京都	9C後半		27
	八町1号遺跡2次	包含層	101	613	碗		京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	SK1	102	75	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡2次	SK3	103	192	碗か皿	円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	104	616	皿	削り出し輪高台	京都	9C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	105	615	皿		京都	10C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	106	614	碗		近江	10C後半		
	八町1号遺跡2次	SK2	107	170	碗か皿		近江	10C後半		
	八町1号遺跡2次	SK4	108	250	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C前半		
	八町1号遺跡2次	SK12	109	300	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半～10C前半		
	八町1号遺跡2次	SK21	110	317	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	SD2	111	362	碗か皿			9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	112	619	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	113	618	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	114	617	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	115	620	碗か皿		近江	10C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	116	621	碗か皿	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	117	622	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	118	623	碗か皿	貼り付け輪高台	東海	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	119	624	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	120	625	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	121	626	碗	貼り付け輪高台	近江	10C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	122	627	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	123	628	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	124	629	碗か皿	貼り付け輪高台	近江	10C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	125	630	碗か皿	貼り付け輪高台	近江	10C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	126	631	碗か皿	貼り付け輪高台	近江	10C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	127	632	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	128	633	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	129	634	皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	130	635	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	131	636	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	132	637	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	133	638	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	134	639	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	135	640	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	136	641	碗か皿	円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	137	642	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	138	643	碗か皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡2次	包含層	139	644	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	140	645	耳皿		京都	9C後半～10C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層	141	646	耳皿		東海	9C後半～10C前半		
	八町1号遺跡2次	包含層		未報告					62点	
28	八町1号遺跡3次	第6・7層	142	391	碗		京都	9C後半		28
	八町1号遺跡3次	第9層	143	333	皿		京都	9C後半		
	八町1号遺跡3次	その他の出土	144	449	皿		近江	10C後半		
	八町1号遺跡3次	第9層	145	334	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡3次	SK-03	146	20	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡3次	第9層	147	335	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡3次	第9層	148	336	皿	貼り付け輪高台	近江	10C後半		
	八町1号遺跡3次	第6・7層	149	192	碗	貼り付け輪高台	近江	10C後半		
	八町1号遺跡3次	第8層	150	228	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡3次	第9層	151	337	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	八町1号遺跡3次	第9層	152	338	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡3次	第9層	153	339	碗	円盤高台	京都	9C後半		
	八町1号遺跡3次	第9層	154	340	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
29	八町1号遺跡4次	第8層	155	166	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半	22点	29
	八町1号遺跡4次	その他の出土 包含層	156	277	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半～10C前半		
	八町1号遺跡4次	第12層	157	248	皿		京都	9C後半		

表 4 緑釉陶器出土一覧その 3

遺跡 番号	遺跡名	出土場所	図版掲 載番号	報告書 掲載番号	器種	高台	産地	時期	備考	報告書 番号
24	八町1号遺跡4次			未報告					11点	29
25	高橋湯ノ窪遺跡Ⅱ	5層	158	410	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		30
26	日高19地点		159	56	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		31
27	別名成ルノ谷遺跡	包含層	160	197	碗		京都	9C後半～10C前半		32
28	別名寺谷Ⅰ遺跡	SI03	161	331	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		32
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SB01	162	335	皿		京都	10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	DAN01	163	344	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半	輪花皿	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SB01	164	337	皿		京都	9C後半	輪花皿	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	DAN002	165	360	碗		京都	9C後半～10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SD08	166	483	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SD08	167	484	皿		京都	10C前半	輪花皿	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SD08	168	482	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	2号土器溜まり	169	572	皿		京都	9C後半	輪花皿	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SD08	170	481	碗		京都	10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	DAN02	171	361	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	2号土器溜まり	172	571	耳皿		京都	9C後半～10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SP58	173	583	皿		京都	9C後半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SK02	174	382	碗		京都	9C後半～10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	175	705	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半	ヘラ記号「-」あり	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	176	707	皿		京都	9C後半～10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	177	706	皿		京都	9C後半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	178	708	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半	輪花皿	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	179	709	皿		京都	10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	180	718	耳皿		京都	9C後半～10C前半	緑釉陶器素地か？	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	181	711	皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	182	710	皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	183	712	瓶		京都	9C後半～10C前半		
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層	184	720	皿	削り出し蛇の目高台	京都	10C前半	緑釉陶器素地か？	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	DAN02		未報告					11点	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	DAN03		未報告					3点	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SK02		未報告					2点	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SD08		未報告					5点	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	SD10		未報告					1点	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	1号土器溜まり		未報告					1点	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	2号土器溜まり		未報告					1点	
	別名寺谷Ⅰ遺跡	包含層		未報告					46点	
29	別名寺谷遺跡	5層	185	393	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		33
	別名寺谷遺跡	5層	186	394	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	別名寺谷遺跡	その他出土	187	518	碗		京都	9C後半～10C前半		
	別名寺谷遺跡	5層	188	395	碗		京都	10C前半		
	別名寺谷遺跡	その他出土	189	519	碗		京都	10C前半	輪花碗	
	別名寺谷遺跡	その他出土	190	520	碗		近江	10C後半		
30	別名端谷Ⅰ遺跡	包含層	191	161	耳皿	円盤高台	京都	9C後半～10C前半		32
32	矢田八反坪遺跡3次	層位不明	192	270	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		34
33	阿方遺跡	SR1	193	1183	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		35
34	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SB01	194	13	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		36
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SB06	195	53	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SB06	196	50	碗	削り出し円盤高台	京都	9C前半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SB05	197	49	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SB06	198	52	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SB02	199	44	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01	200	297	碗		京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01	201	292	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半	輪花碗	
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01	202	294	碗		京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SX01	203	96	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01	204	299	耳皿		京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01	205	293	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01	206	295	碗		京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD06	207	303	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01	208	298	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01	209	296	碗		京都	9C前半		
	阿方春岡遺跡	上層遺構面	210	314	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	211	446	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	212	447	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	213	456	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	214	449	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	215	448	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	216	454	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	217	450	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	218	451	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	219	455	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	20	452	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	221	453	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	上層包含層	222	457	皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	阿方春岡遺跡	表土・一括	223	507	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SP138		未報告					点数不明	
	阿方春岡遺跡	Ⅱ-SD01		未報告					2点	
	阿方春岡遺跡	包含層		未報告					24点	
35	阿方牛ノ江Ⅱ遺跡	包含層	224	817	壺	貼り付け輪高台	京都	9C後半		37
	阿方牛ノ江Ⅱ遺跡	包含層		未報告					5点	
36	石井国友遺跡	1次調査区その他の包含層	225	173	碗		京都	9C後半		38
	石井国友遺跡	1次調査区第4層	226	23	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	石井国友遺跡	1次調査区第5層	227	40	碗		京都	9C前半		
	石井国友遺跡	3次調査区SB-06	228	14	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		

表 5 緑釉陶器出土一覧その 4

遺跡番号	遺跡名	出土場所	図版掲載番号	報告書掲載番号	器種	高台	産地	時期	備考	報告書番号
36	石井国友遺跡	1次調査区第9層	229	55	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		38
	石井国友遺跡	1次調査区第5層	230	41	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	石井国友遺跡	2次調査区SD5	231	6	碗	貼り付け輪高台	近江	10C前半		
	石井国友遺跡	2次調査区包含層	232	80	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	石井国友遺跡	2次調査区包含層	233	86	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	石井国友遺跡	2次調査区包含層	234	82	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	石井国友遺跡	2次調査区包含層	235	84	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	石井国友遺跡	2次調査区包含層	236	81	皿	削り出し円盤高台	京都	9C前半		
	石井国友遺跡	2次調査区包含層	237	83	碗か皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C		
	石井国友遺跡	2次調査区包含層	238	85	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		
37	糸大谷遺跡	包含層	239	TJ003	皿		京都	9C後半		39
	糸大谷遺跡	包含層	240	TJ004	皿		京都	不明		
	糸大谷遺跡	包含層	241	TJ005	皿		京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	242	TJ006	皿		京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	243	TJ007	皿		京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	244	TJ015	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	SK13	245	TJ010	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	246	TJ011	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	247	TJ024	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	248	TJ022	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	249	TJ014	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	250	TJ023	碗		不明	9C後半～10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	251	TJ019	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	252	TJ025	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	253	TJ026	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	254	TJ018	耳皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	255	TJ008	皿		京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	256	TJ009	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	257	TJ012	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	258	TJ013	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	259	TJ016	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	260	TJ017	皿		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	261	TJ028	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	262	TJ034	碗		京都	不明		
	糸大谷遺跡	包含層	263	TJ038	碗		京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	264	TJ020	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	265	TJ021	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	266	TJ027	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	267	TJ029	碗		京都	不明		
	糸大谷遺跡	包含層	268	TJ030	碗		京都	不明		
	糸大谷遺跡	包含層	269	TJ031	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	270	TJ032	碗		京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	271	TJ033	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	272	TJ035	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	273	TJ036	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	274	TJ037	碗		京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	275	TJ039	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	276	TJ040	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	277	TJ041	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	278	TJ042	碗	貼り付け輪高台	近江	10C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	279	TJ043	碗か皿	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	280	TJ044	皿	削り出し輪高台	京都	9C後半～10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	281	TJ045	小碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	282	TJ046	碗か皿	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	283	TJ049	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	284	TJ048	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	285	TJ050	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	286	TJ051	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	298	TJ052	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	288	TJ056	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	289	TJ054	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	290	TJ053	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	291	TJ062	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	292	TJ063	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	293	TJ055	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	294	TJ057	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	295	TJ047	碗か皿	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	糸大谷遺跡	包含層	296	TJ058	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	297	TJ059	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	298	TJ060	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	包含層	299	TJ031	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	糸大谷遺跡	SP247		未報告					点数不明	
	糸大谷遺跡	SP248		未報告					点数不明	
	糸大谷遺跡	SP579		未報告					点数不明	
38	臥間遺跡	包含層	300	810	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		40
	臥間遺跡	包含層	301	809	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	臥間遺跡	包含層		未報告					3点	
39	赤岸鼻遺跡	グリット出土	302	図32-2	碗	不明	京都	10C前半		41
40	猿川西ノ森遺跡	包含層	303	887	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		42
	猿川西ノ森遺跡	包含層	304	889	皿		京都	9C後半		
41	宮浦遺跡	B7区9層	305	図72-47	碗	削り出し円盤高台	京都	9C		43
	宮浦遺跡	B7区9層	306	図72-48	碗	削り出し円盤高台	京都	9C		
	宮浦遺跡	B9区	307	図76-3	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	宮浦遺跡	B4区2層～3層	308	図60-6	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C		

表 6 緑釉陶器出土一覧その 5

遺跡 番号	遺跡名	出土場所	図版掲 載番号	報告書 掲載番号	器種	高台	産地	時期	備考	報告書 番号
41	宮浦遺跡	B4区4層下部	309	図61-24	碗		不明	不明		43
	宮浦遺跡	B7区9層	310	図71-45	碗		不明	不明		
	宮浦遺跡	B8区	311	図75-37	碗		不明	不明		
	宮浦遺跡	B4区4層上部	312	図60-18	皿		不明	不明		
	宮浦遺跡	B7区9層	313	図71-46	碗	削り出し円盤高台	京都	9C		
42	平田七反地遺跡	c-1区 SD127	314	843	皿	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		44
	平田七反地遺跡	c-2区 SD4	315	92	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	c-2区 SD255	316	936	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	平田七反地遺跡	c-2区 SP795	317	984	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	318	1067	碗		近江	10C後半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	319	1066	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	320	1070	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	321	1071	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	322	1069	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	323	1068	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	324	1072	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	325	1073	碗	不明	不明	不明		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	326	1398	碗	円盤高台	京都	9C後半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	327	1399	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	328	1400	皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	329	1402	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	d-1区 SD1	330	1074	碗	削り出し輪高台？	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	331	1401	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	332	1403	碗か皿	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	333	1404	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	334	1405	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	335	1407	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	平田七反地遺跡	c区 包含層	336	1406	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	平田七反地遺跡	d区 包含層	337	1503	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
43	大洞遺跡3次	SX5	338	476	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		45
	大洞遺跡3次	第Ⅳ層	339	504	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
44	船ヶ谷遺跡4次	第Ⅶ層	340	1684	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		46
45	座拝坂遺跡	包含層	341	未報告	皿		京都	9C後半		47
	座拝坂遺跡	包含層	342	未報告	碗		京都	9C前半		
46	吉藤公園	第8層	343	55	碗か皿		京都	9C後半		48
	吉藤公園	第8層	344	56	碗か皿		京都	9C後半		
47	大畑遺跡	包含層	345	193	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		49
48	祝谷本村遺跡	SR04	346	1177	皿	削り出し輪高台	京都	9C後半	陰刻花文皿	50
49	祝谷畑中遺跡	SR01	347	1114	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		50
49	祝谷畑中遺跡	V層	348	1125	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
50	道後湯月町遺跡	池址2	349	163	耳皿	円盤高台	京都	9C後半～10C前半		51
51	道後今市遺跡9次	砂礫層	350	511	小碗		京都	9C後半～10C前半		52
52	道後町遺跡	包含層	351	134	皿		京都	10C前半		53
	道後町遺跡Ⅱ								60/290の箱に出土の記載あり	
53	岩崎遺跡	第Ⅲ層	352	Ⅲ081	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		55
	岩崎遺跡	第Ⅲ層	353	Ⅳ048	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	岩崎遺跡	第Ⅲ層	354	Ⅳ049	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	岩崎遺跡	第Ⅲ層	355	Ⅳ050	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	岩崎遺跡	第Ⅲ層	356	Ⅳ051	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	岩崎遺跡	第Ⅲ層	357	V 541	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		
	岩崎遺跡	第Ⅲ層	358	巻頭図版A	皿		近江	10C後半		
	岩崎遺跡	第Ⅲ層	359	巻頭図版B	碗か皿		近江	10C後半		
54	石手村前遺跡	SK10		未報告	皿				1点	56
	石手村前遺跡	SR1		未報告					4点	
55	香町遺跡	包含層	361	740	碗	削りだし蛇の目高台	京都	9C後半		57
	香町遺跡	包含層	362	741	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
56	此花町遺跡	SI1	363	1	碗		近江	10C後半	小碗の可能性あり	58
	此花町遺跡	SD21		5	碗		京都	10C前半	輪花碗	
	此花町遺跡	包含層(Ⅶ層)	364	128	碗		京都	9C後半～10C前半		
57	此花町遺跡	SR1		未報告					1点	60
	榊立立遺跡4次	SR1	365	65	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡	包含層	366	図版56-3	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	榊味四反地遺跡	包含層	367	図版56-1	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡	包含層	368	図版56-2	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡5次	SR1①層	369	11	碗		京都	9C後半～10C前半		
	榊味四反地遺跡5次	SR1①層	370	13	碗		京都	9C		
	榊味四反地遺跡5次	SR1①層	371	12	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	榊味四反地遺跡5次	SR1②層	372	98	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡5次	SR2②層	373	99	皿	円盤高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡5次	SR3②層	374	100	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	榊味四反地遺跡5次	SR4②層	375	102	碗か皿	円盤高台	京都	9C前半		
	榊味四反地遺跡5次	SR5②層	376	101	碗か皿	円盤高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡5次	SR1③層	377	325	碗か皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡5次	V層	378	837	皿		京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡6次	SB016ないしSB003	379	243	碗か皿	円盤高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡10次	SK8	380	28	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	榊味四反地遺跡12次	第Ⅳ層	381	71	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	榊味四反地遺跡15次	SD1	382	16	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	榊味四反地遺跡15次	SD1	383	未報告	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	榊味四反地遺跡15次	SD1		89					実測図なし。写真図版に掲載。	
	榊味四反地遺跡15次	層位不明	384	80	碗か皿	削りだし蛇の目高台	京都	9C後半		
	榊味四反地遺跡19次	第Ⅱ層	385	164	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
	榊味四反地遺跡19次	第Ⅱ層	386	163	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		

表 7 緑釉陶器出土一覧その 6

遺跡 番号	遺跡名	出土場所	図版掲 載番号	報告書 掲載番号	器種	高台	産地	時期	備考	報告書 番号
58	樽味四反地遺跡20次	グリッド出土	387	309	碗		京都	10C前半		66
59	桑原東稲葉遺跡1次調査	柱穴内		未報告					1点	67
	桑原東稲葉遺跡2次調査	第V層	388	95	碗		京都	9C後半～10C前半		67
	桑原東稲葉遺跡2次調査	SP118	389	85	碗	削り出し円盤高台	京都	9C前半		
60	素鷺小学校校内遺跡	W4区出土	390	244	碗か皿	削り出し輪高台	京都	9C後半		68
61	東本遺跡6次	SR201埋土①	391	143	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		69
62	東本遺跡6次	SR201埋土①	392	142	碗		近江	10C後半		
63	大峰ヶ台丘陵客谷地区	試掘調査	393	③	碗		不明	不明		70
63	南江戸桑田遺跡	1号溝状遺構	394	98	壺		不明	不明		71
	南江戸桑田遺跡	調査区出土	395	3	碗か皿	削り出し輪高台	京都	10C前半		
64	南江戸客谷遺跡	SD1中層	396	55	皿		京都	9C後半		70
65	南江戸圃日遺跡2次	東側上層遺構外	397	797	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半		72
66	松環古照遺跡	IV-4小区	398	806	不明		不明	不明	経筒容器の蓋か？	73
67	古照遺跡8次	黒色粘土の西側	399	411	碗		京都	10C前半		74
68	南斎院土居北遺跡	SD1	400	238	壺		京都	9C		72
69	鳥越遺跡	SB2	401	476	小杯	円盤高台	京都	9C		75
70	東垣生八反地遺跡6次	SK202	402	128	碗		近江	10C後半		76
	東垣生八反地遺跡6次	包含層	403	288	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
71	余戸弘川遺跡1・2次	包含層		未報告	碗				1点	77
72	古川遺跡1次	SD1	404	61	皿		京都	9C後半		78
	古川遺跡1次	地点不明出土	405	151	皿		京都	9C後半		
	古川遺跡1次	第Ⅲ層	406	111	皿		京都	9C後半		
73	西石井遺跡	SX201	407	2031	皿		近江	10C後半		79
	西石井遺跡	表探	408	2261	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		
74	東石井遺跡	SK310	409	326	皿		京都	9C後半		79
75	石井幼稚園遺跡	SD1	410	82	皿		京都	9C後半		80
	石井幼稚園遺跡	SD1	411	83	碗	削り出し輪高台	京都	9C後半～10C前半		
	石井幼稚園遺跡	SD1	412	84	耳皿	円盤高台	京都	9C後半～10C前半		
76	北井門遺跡3次	SR1最上層	413	878	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		81
	北井門遺跡3次	SR1最上層	414	880	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	北井門遺跡3次	SR1最上層	415	879	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
77	川附遺跡		416	未報告	小碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		82
	川附遺跡	包含層	417	181	碗		不明	不明		
	乃万の裏遺跡2次	IV下層	418	524	碗か皿		京都	9C後半		
78	乃万の裏遺跡2次	IV上層	419	597	碗か皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		83
79	久米才歩行遺跡4次	SR201埋土①	420	234	碗	貼り付け輪高台	近江	10C後半		84
80	前川 I 遺跡		421	7	皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		85
81	久米窪田森元遺跡3次	追加資料	422	94	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		86
	久米窪田森元遺跡3次	追加資料	423	95	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
	久米窪田森元遺跡3次	追加資料	424	96	碗		京都	9C後半～10C前半		
	久米窪田森元遺跡3次	追加資料	425	97	不明		京都	9C後半～10C前半		
	久米窪田森元遺跡4次	SR4	426	50	碗	貼り付け有段輪高台	近江	10C後半		86
	久米窪田森元遺跡4次	IV②層出土	427	93	碗		不明	不明		
	久米窪田森元遺跡4次	SR4	428	49	碗		京都	10C前半		
82	古市遺跡1次	表探	430	316	碗		京都	10C前半		
83	竹ノ鼻遺跡	その他の出土	431	374	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		88
	竹ノ鼻遺跡	SB02	432	144	碗か皿	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
84	上三谷篠田・鶴吉遺跡	層位不明	433	2260	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		89
	旗屋遺跡Ⅱ	SI1	434	38	碗	削り出し円盤高台	京都	9C後半		
	旗屋遺跡Ⅱ	SI1	435	39	碗	削り出し蛇の目高台	京都	9C後半		
85	旗屋遺跡Ⅱ	SI1		未報告					16点	89
	旗屋遺跡Ⅱ	SK2		未報告					3点	
	旗屋遺跡Ⅱ	SD1		未報告					2点	
86	西ノ前遺跡	第2調査区出土	436	1	碗	削り出し輪高台	京都	10C前半		90
	西ノ前遺跡	第2調査区出土	437	2	碗	貼り付け輪高台	近江	10C後半		

資料調査で実見することができず、報告書の図面や記載などを参考に筆者が産地および時期を判断

2023 年 9 月 29 日に大阪大学大学院の高橋照彦氏を招聘した際に産地および時期についてご指導いただいた

筆者が資料調査で実見した資料であり、資料調査と報告書の記載などを参考に産地および時期を判断